

YAMAHA



ELECTONE

C-2B

Playing Guide エレクトーンの手引

- ヤマハエレクトーン C-2 Bの特長 = P 2
- ヤマハエレクトーン C-2 Bの外観・各部名称 = P 4
- トーンレバー・エフェクトレバーのご使用法 = P 7
- カブラーについて = P11
- C-2 Bの音域表 = P12
- ヤマハエレクトーン C-2 Bの仕様 = P 13
- ヤマハエレクトーン C-2 Bの構成 = P 14
- ヤマハエレクトーン C-2 Bの保存法 = P 22
- ヤマハエレクトーン C-2 Bの調整法 = P 23
- こんな場合は故障ではありません = P 25
- ヤマハエレクトーン C-2 Bのヒューズ交換 = P 27
- ヤマハの保証とサービスシステム = P 28
- 演奏はこうして = P 29
- ヤマハエレクトーン C-2 Bの記譜法 = P 35
- エレクトーン用語解説 = P 40
- ヤマハエレクトーン C-2 Bの練習曲 = P 42
- 附属品のご案内 = P 48
- ヤマハエレクトーン教室のご案内 = P 49

ヤマハエレクトーンC-2Bの特長

テレビやステージですっかり人気を集めているエレクトーン。たった一台でいろいろな音が出せ、合奏の効果も楽しめる楽器。演奏が簡単でさぐり弾きで楽しめる楽器として、もう、世界に有名です。しかし、このエレクトーンC-2Bは、いままでのエレクトーンとは違って、電子楽器初の〈生きた音〉を持っているのです。

ヤマハエレクトーンC-2Bはヤマハが開発したナチュラルサウンド・スピーカー(Natural Sound Speaker)による最初のエレクトーンです。いままでのスピーカーはハイ・ファイの呼び名のように忠実に音を再生するのが目標でした。しかし電子楽器のスピーカーは音を再生するものではなく創造するはずのものです。ナチュラルサウンド・スピーカーの開発がこの問題を解決しました。

ナチュラルサウンド・スピーカーの本体は 850 mm × 600 mm の超大型、形はアブストラクトの一枚板。ピアノの響板が発明のヒントになりました。音波がまじわり合成される多次元響鳴システムです。ピアノ響板のスプールの木から始められて 200

以上の材質が研究つくされました。そして獲えた3つの合成物質と独特の設計が理想の音を奏でてくれたのです。ナチュラルサウンド・スピーカーの開発で、エレクトーンC-2Bの演奏は豊かな音、澄んだ音を中心にだけに片よらず、前後左右に等しくダイナミックに広がります。世界で初めて電子の波が〈生きた音〉〈音楽の音〉になったのです。さあ、心ゆくまでお楽しみください。最高の音色で演奏する楽しみが今日からあなたのものです。

エレクトーンC-2B型の特長

1：ヤマハが開発した多次元共鳴システム、ナチュラルサウンド・スピーカーを採用。低音が豊かで厚みがあり、音に広がりがあります。特に中音から高音にかけてムラがなくまろやかな音色です。

2：ブリリアンスレバーにより音を明るくしたり、暗くしたりすることができます。

3：サステインの使用により、ピアノ的な余韻を残せます。

4：トータルボリュームは深夜など人の迷惑にならないよう自由に音量調節ができます。

5：エクスプレッションペダルにより音を大きくしたり小さくしたりして表情をつけることができます。

6：ビブラトレバーにより音に生き生きした感じとうるおいが与えられます。

7：ドアスイッチの取り付けにより、電源スイッチを切り忘れても自動的に電源が切れますので安心です。

8：3種類のシンギングビブラートの使い分けにより瞬間的な曲想の変化、好みの深さ、速さが得られます。

9：エフェクトニーレバーコントロールはビブラートとサステインの連動で操作することができます。

10：ペダル鍵盤にはペダルアタックの採用により音にアクセントが与えられますので弦バスのピチカート効果を容易に得ることができます。

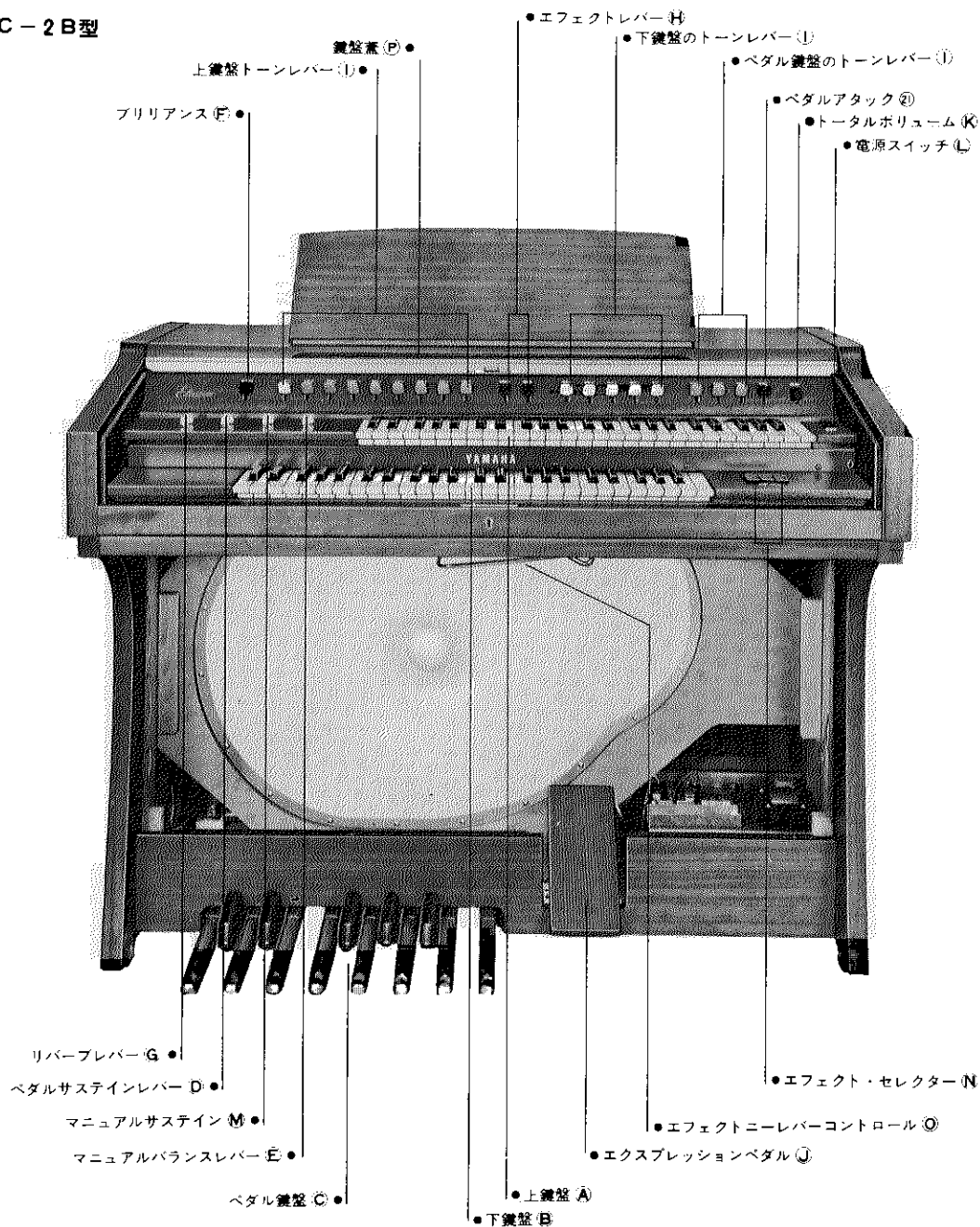
11：伝統あるヤマハの木工技術の粋を結集し美しいウォルナット材で作られた外装は格調高い気品にあふれた芸術品ともいえます。

家庭の応接間にも又ホテルやロビーのゴージャスな雰囲気にもピッタリです。



ヤマハエレクトーンC-2Bの 〈外観・各部名称〉

エレクトーンC-2B型



鍵盤 **A** **B** **C**

A 上鍵盤(Upper manual=UM)

49鍵c-c₄ (4オクターブ)

B 下鍵盤(Lower manual=LM)

鍵盤C-c₃ (4オクターブ)

C ペダル鍵盤(Pedal)

13鍵C₁-C (1オクターブ)

以上3つの鍵盤がメロディとハーモニーとリズムをつくります。

トーンレバー **I**

これはエレクトーンの音色をきめるレバーで**②⑨⑩⑬⑯⑱⑳**のレバーはカプラーと言い、これを使えば、ひとつのキーにいくつもの音を重ねることができます。エレクトーンだけ()一台でできる合奏です。

エフェクトレバー **H**

4つの黒いレバーはエレクトーンの音色にさまざまな効果をつけるエフェクトレバーです。

サステイン **D** **M** **O**

鍵盤の下側ちょうど右ヒザの上の位置に金属のレバー**③**がたたみこまれています。

それを下側に引き起して下さい。

これがエフェクトニーレバーコントロールです。

エレクトーンではふつう、キーを押した瞬間に音が出て、離れた瞬間にプツリと切れてしまいます。

ところが、実際の楽器、特にピアノではペダルを踏んでいればキーを離れた後も余韻が残ります。

そうした効果を出すのがサステインです。

下鍵盤右柏子木のエフェクトセレクター**N**のサステインタブレットをONにし、上鍵盤左柏子木のマニュアルサステインレバー**M**を調整することにより任意の長さにする事が出来ます。

すなわち右で最も長く、左で最も短くなります。

サステインが必要でないときは、サステインタブレットがONになってもエフェクトニーレバーコントロールを作用しなければサステインはかかりません。又サステインをかけようとしてエフェクトニーレバーコントロールを右に押してもサステインタブレットをONに、又マニュアルサステインレバーを任意の長さにセットしなければやはりかかりません。

エレクトーンC-2B型ではサステインは灰色のトーンレバーすなわち上鍵盤で4'と8'、ペダル鍵盤には8'と16'のすべての音にかかります。

ペダル鍵盤のサステインは、上鍵盤左柏子木のペダルサステインレバー**D**を調整することによりサステインをかけたり切ったりし、またサステイン時間を選ぶことが出来ます。

バランス **E**

4つ並んだレバーのうち、いちばん右のレバーはバランスです。これは上鍵盤と下鍵盤の音のバランスをとるためのもので、ふつうは中央位置にしておきます。しかし、例えば上鍵盤がメロディをとり、下鍵盤が伴奏の役を果たしているときなど、メロディをもっと引き立たせたいと思う時は、これを右にまわして、バランスをとります。逆に下鍵盤の音が弱すぎたら左にまわします。

ブリリアンス **F**

コントロールパネルのトーンレバー群の中のいちばん左の黒いレバーはブリリアンスです。ブリリアンスは抵抗とコンデンサーで構成され、高域

倍音をどこから切るかによって音の感じを変えます。パネルのブリリアンスレバーをOFFの状態にすると高域倍音が大巾に切られ暗い感じがします。エフェクトレバーをONの状態にしますと高域倍音の切られ方が少なくなり明るい感じがします。

マンドリンレバー

上鍵盤の音がこまかく断続してマンドリンの効果が得られます。

ビブラートレバーと

ビブラートタブレット

エレクトーンC-2B型のパネル上中央に黒いレバーが、2つあります。右側がビブラートレバーです。またこのレバーの他に、下鍵盤右の拍子木のエフェクトセレクトタブレットにビブラートIとビブラートIIがあります。これについては後でさらにくわしくご説明いたします。

アタック②①

これは、コントロールパネル上、いちばん右の黒いレバーでベース音にアクセントをつけます。

リバーブレバー ⑥

上鍵盤右の拍子木にあるレバーのうち一番左にあるレバー REVERB を回してみてください。大ホール内で演奏している様な残響が得られます。このレバーにはボリュームがついて連続可変になっていますので、残響のかかりかたを強くしたり弱くしたり自由に調節出来ます。

エクスプレッションペダル ④

音を大きくしたり小さくしたりして音楽に表情をつけるのが、エクスプレッションペダルです。これは右足で踏みます。踏みこめば音が大きくなり、戻せば小さくなります。

トータルボリューム ⑧

“VOLUME” とコントロールパネルの右側に記してある黒色のつまみがトータルボリュームです。トータルボリュームは全体の音量を可減することができ、エクスプレッションペダルをもっとも踏みこんだ時の音量を制御できますので、深夜など人の迷惑にならないよう演奏したい場合など、実際の演奏状態のまま音量を自由に調整して演奏することができます。

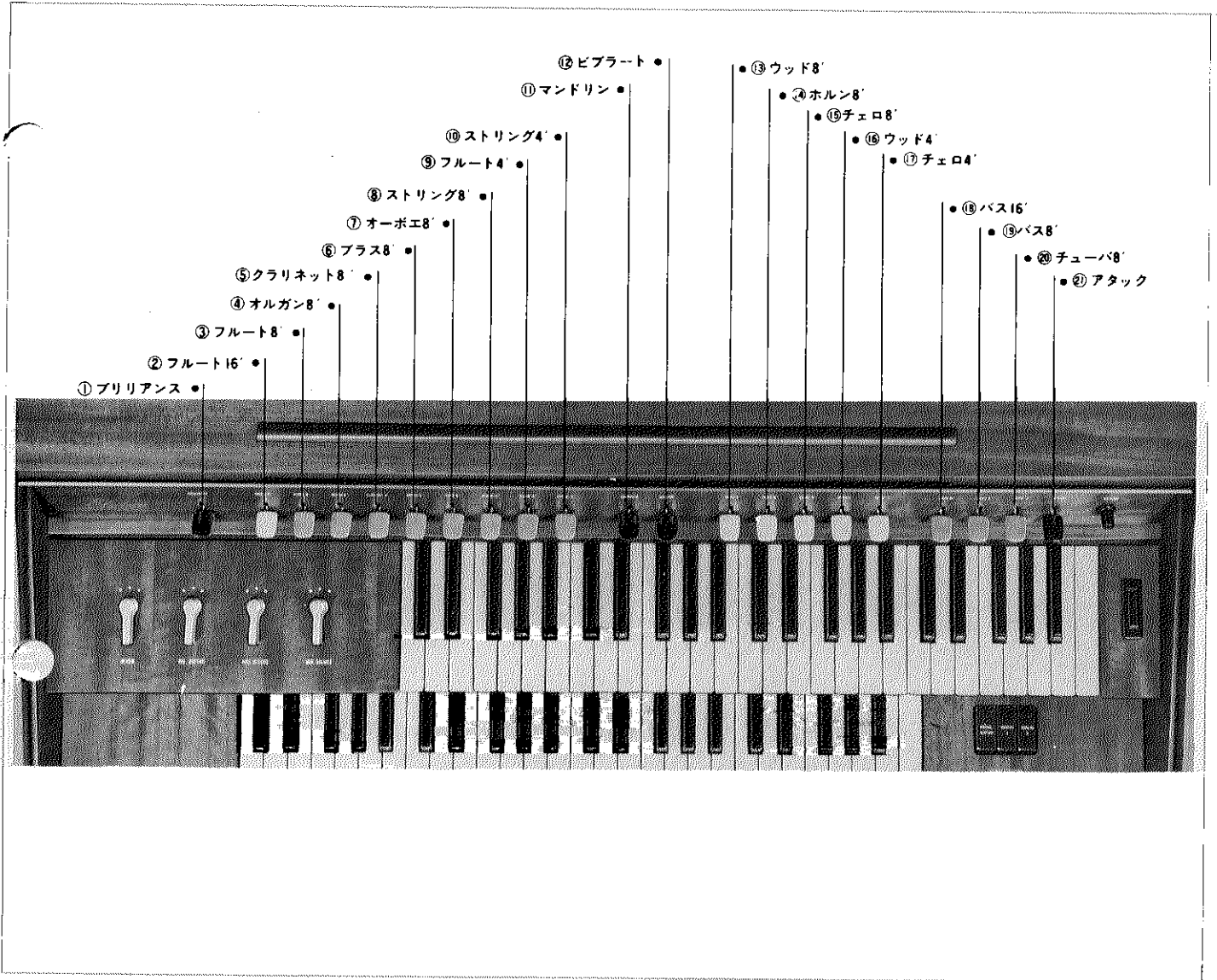
パワースイッチ ⑤

いままでのスイッチと違ってスイッチ部分にネオンランプが内蔵してあります。

ドアスイッチ

電源スイッチを切り忘れても、蓋を閉めれば自動的に電源が切れますので切り忘れの心配が全くありません。

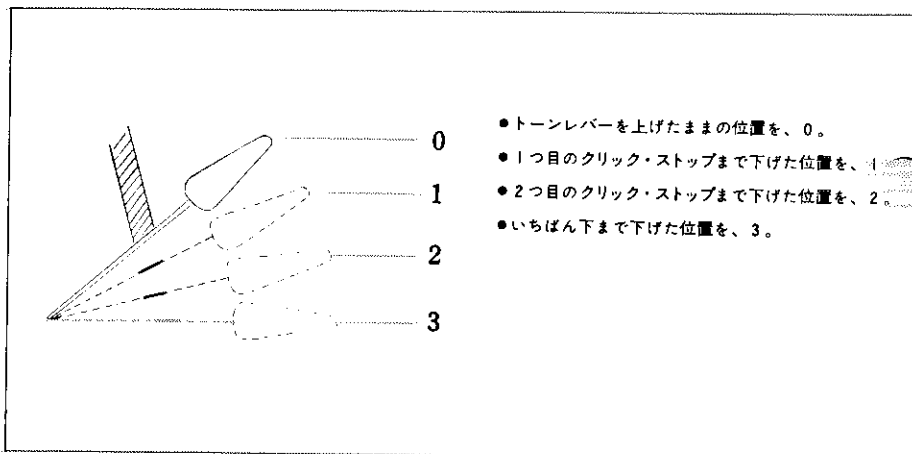
トーンレバー・エフェクトレバーのご使用法



トーンレバーについて

これらのレバーはエレクトーンの色をきめるものですが、一種の音量調節レバーとも言えます。指先で押し下げて行くにつれ、連続的に音量がふえてきます。途中で2カ所、ちょっと手ごたえがありますが、これはわかりやすいようにクリック・ストップになっているため、次のような4段のメヤスがついています。

また、エレクトーンC-2Bにはカバーがついたため、トーンレバーのそれぞれの音色の名前の次には8'とか4'とかの数字が書かれています。これはパイプオルガンのパイプの長さからきた呼び名で8フイート、4フイートというように読みます。



上鍵盤のトーンレバー

フルート16' ②

フルート等の音はいっそう柔らかく澄んだ音になり、他の音色とのハーモニーが、一段ときれいです。これはトランジスタをぜいたくに使用した新しい音色フィルターを完成させた成果です。フルート16'のトーンレバーを押し下げると1オクターブ下のフルートの音が加わります。低い音ですから厚みがでますが、強すぎたり、また単独で使ったりすると、基音がオクターブ下がったようになってしまいます。その意味で使えば上鍵盤の音域が下にオクターブひろかったと考えてもいいわけです。このように音域をひろげることもカプラーの使い方のひとつです。これはすべてのカプラーについて言えます。

フルート8' ③

フルートは本来開管の管楽器ですが基音が強く、倍音が少ししかありません。従って単純ですが、少し暗い感じの音がします。

フルート4' ④

フルート音で、オクターブ上の音が出ます。これを加えると音は生き生きしてきます。8'を弱くして、あるいは、この音を単独で用いれば音域を上にもオクターブひろげる使い方ができます。

オルガン8' ④

音量感のある、しかも丸味のある音です。フルートとクラリネットを、ミックスしたような音で、バッハのフーガなどを演奏した場合に使用すると効果的です。

クラリネット8' ⑤

丸味をおびて、しかも倍音がうまく配合された音です。他のトーンレバーとは少し違った感じの音で、やや複雑な表現が豊かです。

ブラス8' ⑥

金管楽器の音という意味です。この音は高い倍音まで、たくさん含んでいるので、より複雑な鋭い感じの音になります。明るい音です。

オーボエ8' ⑦

ダブルリードの楽器で基音よりずっと強い倍音を持っているのが特長で

す。従って演奏に味つけの効果がありストリング群などに加えると大変クリアーな効果があらわれてきます。

ストリング8' ⑧

弦楽器の音はずっと高い倍音まで豊富にふくまれています。そのため複雑で豊かな音色になります。このトーンレバーの音も、そうした弦楽器の特長をあらわしています。

ストリング4' ⑩

ストリングの音でオクターブ上の音が出ます。音色が違うだけで他の4フィートと同じ音域を持っています。

下鍵盤のトーンレバー

ウッド8' ⑬

木管楽器の音です。フルートと同じような単純な音ですがいくらか倍音が入って明るい感じになっています。

ウッド4' ⑭

ウッドのオクターブ上の音です。特に低音部でメロディを弾くときなどこの音を加えると音のはっきりします。もちろん下鍵盤の音域をひろげ

るためにも使えます。

ホルン 8' ⑭

ホルンの音には特に強調された倍音はありません。しかし一定の比例で弱まりながらもずっと高い倍音まで含まれているという特長があります。そのためクセのない豊かな音になっています。

チェロ 8' ⑮

ホルンに比べてやや倍音が強調されやわらかく自然なチェロのような音色です。

チェロ 4' ⑰

チェロのオクターブ上の音ができます。

ペダル鍵盤のトーンレバー

バス 16' ⑱

基音が強く、倍音が少ない音ですが非常に低いバスの音域で使われるためバス 8' に比べて音程がはっきりしません。

バス 8' ⑲

バスのオクターブ上の音です。これを加えると、ペダル鍵盤の音は音程が聴きとりやすくなり、ペダル鍵盤でメロディを演奏することもできます。

チューバ 8' ⑳

バスにくらべて倍音が強調されています。

エフェクトレバーについて

マンドリン ①

コントロールパネルの中央の左側の黒いレバーです。このレバーを入れると上鍵盤の音がこまかく断続するようになり、マンドリンに似た効果が得られます。

マニュアルサステインレバー ㉓

使用方法としては上鍵盤左拍子木のマニュアルサステインレバー ㉓及びサステインタブレットを入れてニーレバーを操作すると上鍵盤の灰色のトーンレバーの音色のみにサステインがかかります。サステインの長さは、このマニュアルサステインレバー ㉓により長くも短かくもできます。

ビブラート ⑫

コントロールパネルの中央に2つ並んだ黒いレバーのうち右のレバーがビブラートレバーです。このレバーを入れるとビブラート効果が得られ音が生き生きと響くようになります。ビブラートの深さはクリックストップで調整できます。

エフェクトセクター ㉔

下鍵盤右拍子木にある3組の黒色タブレットがこれです。エフェクトセクターとは効果を選択するものという意味であり、その効果として「マニュアル・サステイン」「ビブラート I」「ビブラート II」があります。ビブラート I、ビブラート II のタブレットはシンギングビブラートと呼ばれ、ビブラート I のタブレットを ON にしますとビブラートの速さと深さが同時に変化します。すなわちニーレバーの操作（ニーレバーを右にヒザで押す度合）が浅いときは、ビブラートの速さは遅く（4%）深さも浅いわけですが操作を深くするに従って速さは速く（8%）深さも深くなります。この場合、コントロールパネルの黒色レバーのビブラートは効かなくなります。ビブラート II のタブレットを ON にしますと、ニーレバーを全然操作しないときでもある一定の速さでビブラートが浅くかかります。ニーレバーを段々操作していきまると、それに従い速さは一定で深さのみが変化できます。この場合もコントロールパネルのビブラートは効かなくなります。

カプラーについて

ビブラートIとビブラートIIのタブレットスイッチを同時に入れた場合は、ニーレバーを操作しないときに新しい効果が生まれます。すなわちニーレバーを操作しないときでも、ビブラートIIのみするときより遅い一定の速さでビブラートが浅くかかります。ニーレバーを段々操作していきますと速さと深さが同時に可変できます。この場合もコントロールパネルのビブラートレバーは効かなくなります。

ペダルアタック②

コントロールパネルのいちばん右側の黒いレバーがペダルアタックレバーです。これはペダル鍵盤の音のヘッドクセントをつけるもので、これを使用することにより弦バスのピチカート奏法の効果を得ることができ、リズム的な演奏に特に効果を発揮します。

カプラーとはカップルをつくるものつまり一つの音と別の音を組み合わせる働きをします。これによって、一つの鍵盤を押しただけで幾つもの鍵を組み合わせで押した音がします。まずトーンレバーのうち、フルート8'をいっぱいにおろしてみましよう。8'とはパイプオルガンで8フイートのパイプを基準にしてつくられた音階と同じで基音と呼ばれます。(エレクトーンにはパイプはありませんが、パイプオルガンの表現が、そのまま使われています)次にトーンレバーのうち、フルート16'をいっぱいに入れてみます。これは16フイートのパイプと同じで音の高さが1オクターブ低くなります。つまり、これでもとの音に、オクターブ低い音が加わったこととなります。その音はフルート8'だけで出した音と、そのオクターブ下の音をいっしょにならした場合と同じ二重音です。手鍵盤では8'の音にカプラーを加えますと音がずっと歯切れの良い鋭い音になります。その理由はピッチの異なるカプラーの音が8'の音より早く立ち上がり早く消えてしまうからです。

同様にフルート8'とフルート4'を加

えた場合も同じく1オクターブ上の音をいっしょに弾いたのと同じになります。しかし重音で弾いた場合と違うのは、カプラーでは、レバーをどの程度下げるかによって、自由に音の強さを加減できることです。従ってただの重音とは違い新しい音色が作り出せます。

これらのカプラーは、フルートとかウッドとかいう名前にはあまりとらわれずに使ってください。プラス8'にストリング4'と、フルート16'を加えるとといった使い方ができて、その組み合わせは、上、下、ペダルのそれぞれの範囲で自由に選べます。上鍵盤のトーンレバーなど、ちょっと数え切れないほどの組み合わせ方があるわけですが、実例は後の練習曲でご覧ください。

C-2Bの音域表

上鍵盤
C D E F G A B C D E F G A B C D E F G A B C D E F G A B C D E F G A B C D E F G A B C

下鍵盤
C D E F G A B C D E F G A B C D E F G A B C D E F G A B C

中央C

440サイクル調律の基準

ペダル鍵盤
(実音は記譜より1オクターブ下の音)

ヤマハエレクトーンC-2Bの仕様

C-2B型

鍵盤 上：49c-c, 4 オクターブ

下：49C-c, 4 オクターブ

ペダル鍵盤：13 C₃-C₄ 1 オクターブ

トーンレバー：上鍵盤(9) フルード16'

フルード8' オルガン8' クラリネット8'

ブラス8' オーボエ8' ストリング8'

フルード4' ストリング4'

下鍵盤(5) ウッド8' ホルン8'

チェロ8' ウッド4' チェロ4'

ペダル鍵盤(3) バス16' バス8' チューバ8'

エフェクト=ビブラート(上下鍵盤)

マンドリン(上鍵盤) リバープ(上下鍵盤)

マニュアルサステイン8', 4' (上鍵盤)

ブリリアンス(上下鍵盤) アタック(ペダル)

ペダルサステイン(ペダル)

マニュアルバランス(上下鍵盤)

エフェクトニーレバーコントロール

エフェクトセレクトタブレット-サステイン ビブラート I

ビブラート II

エクスペッションペダル

その他=パワースイッチ イヤホンジャック

トータルボリューム

トランジスタ=380石 オールシリコントランジスタ

ダイオード=56石

メインアンプ=トランジスタ7石 ダイオード6石出力25W

スピーカー=ナチュラルサウンドスピーカー

音源面積=850 × 600 mm(多共振型)

外装=間口：115.6 cm 奥行 70.0 cm

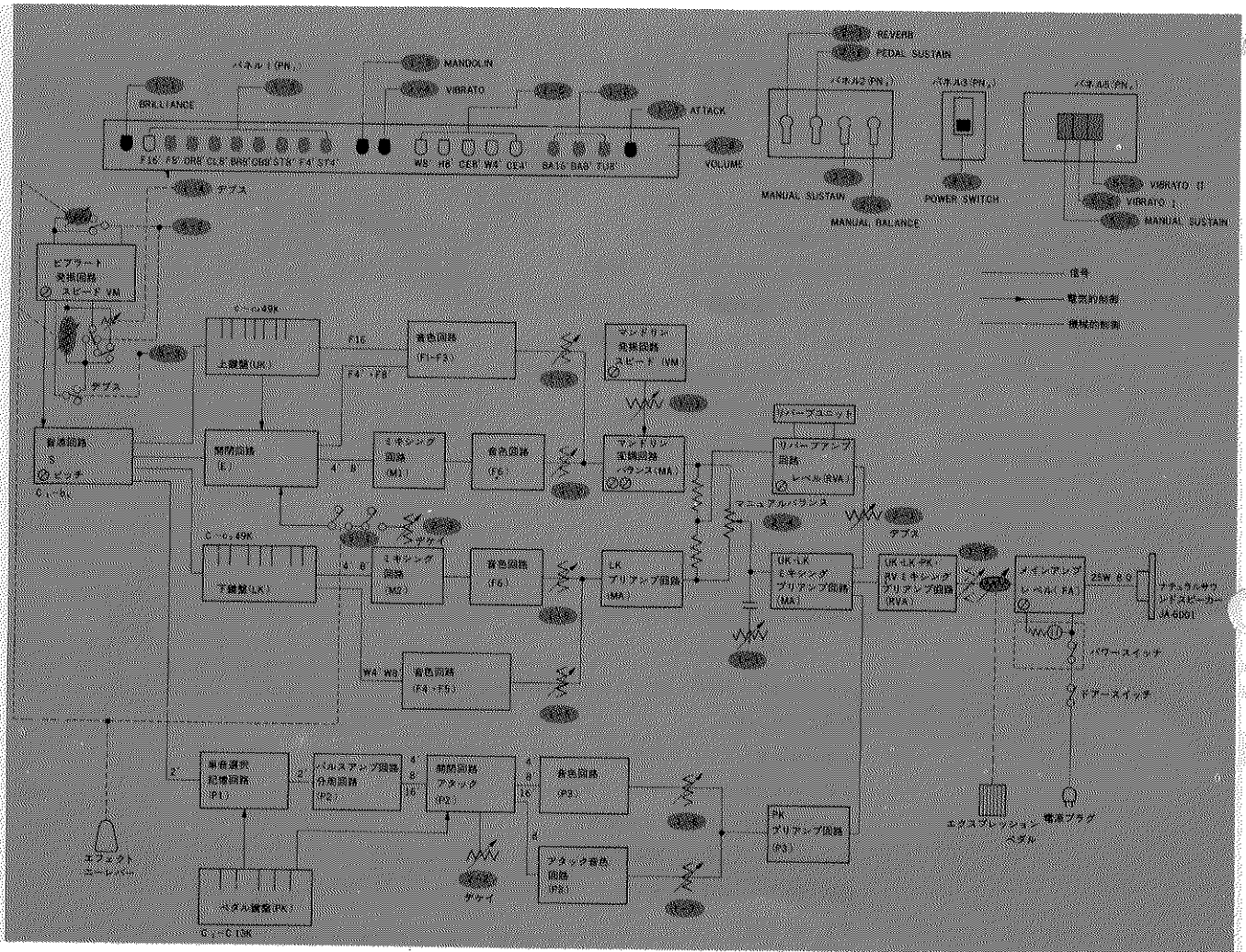
高さ：94.3 cm(譜面台を立てたとき112.6 cm)

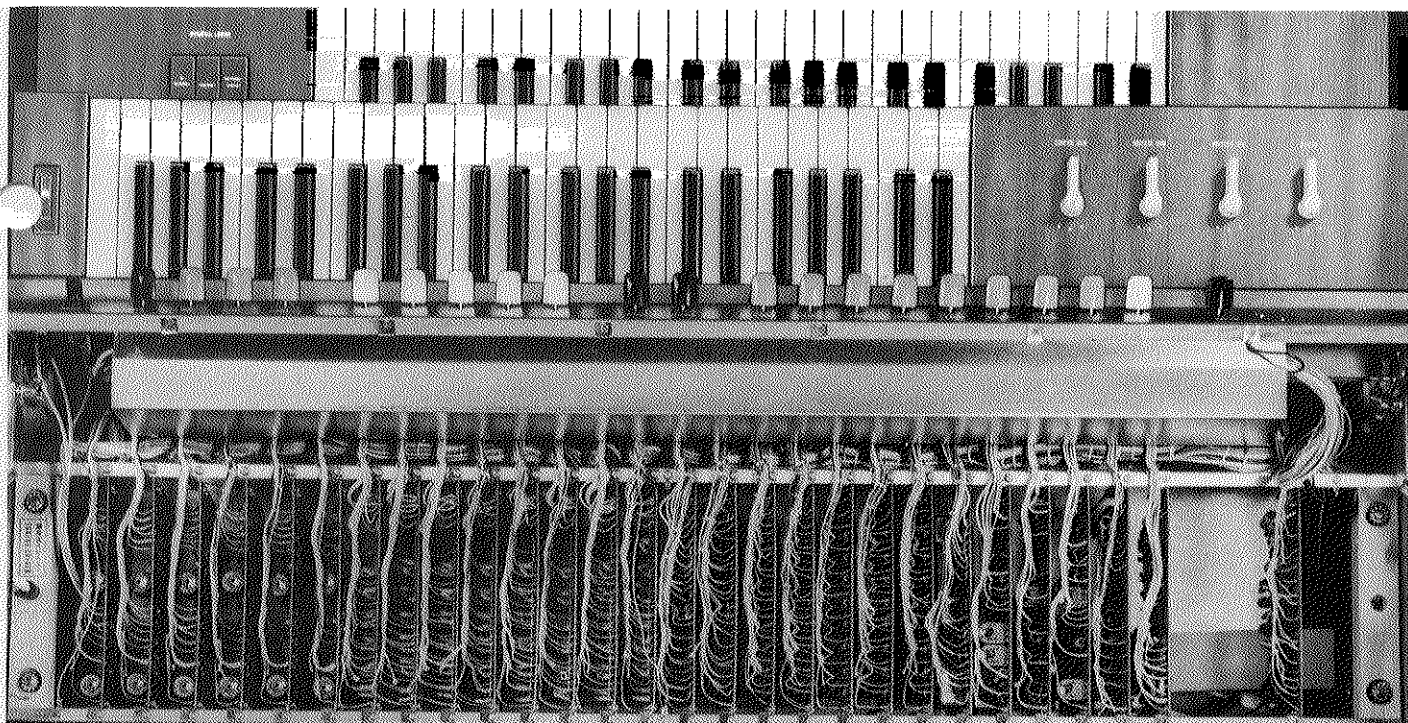
重量=96.8 kg

仕上=クインズランドウォルナット半艶仕上

ヤマハエレクトーンC-2Bの構成

ヤマハエレクトーンC-2B構成図

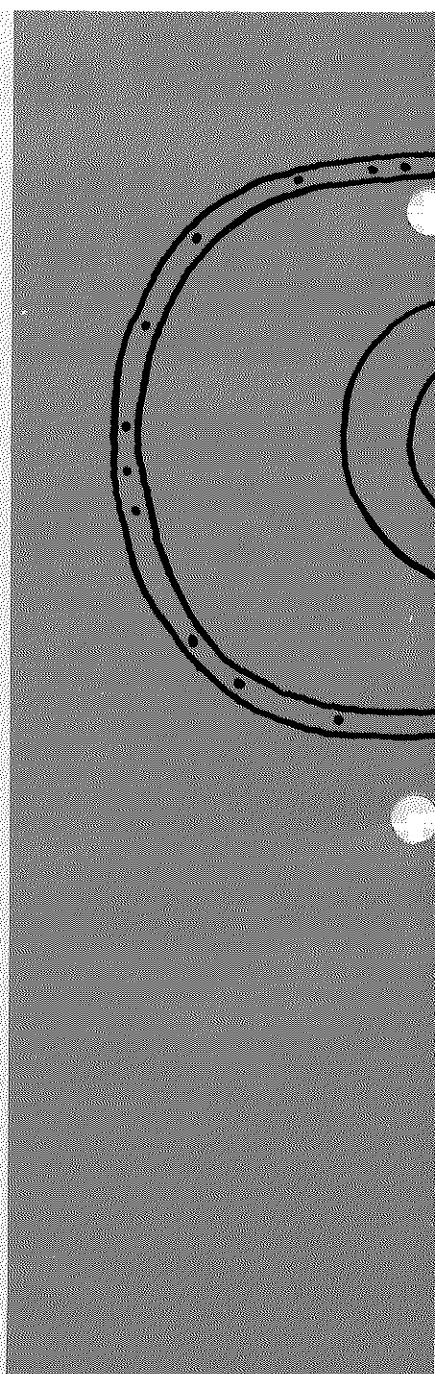
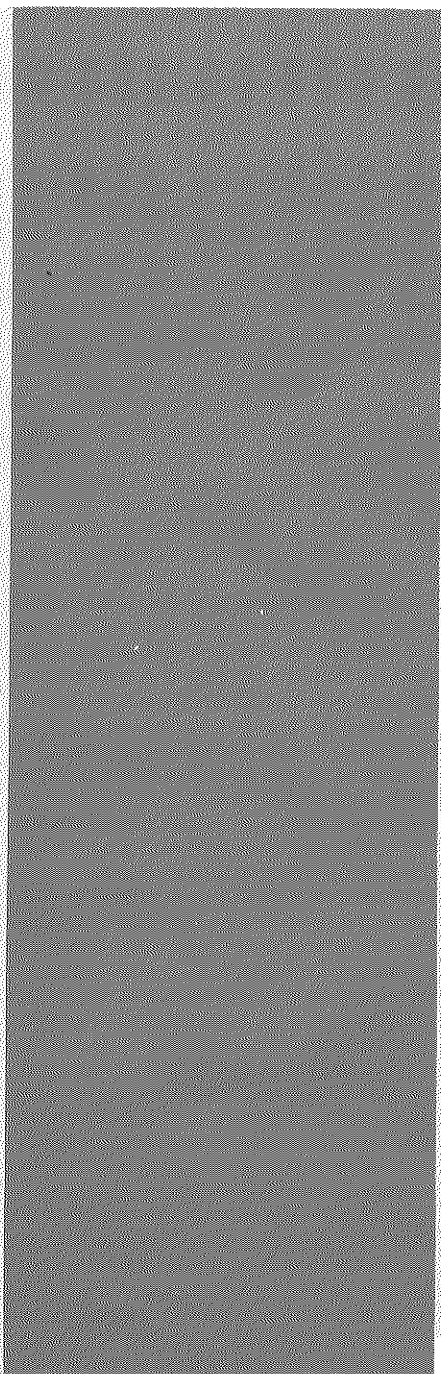


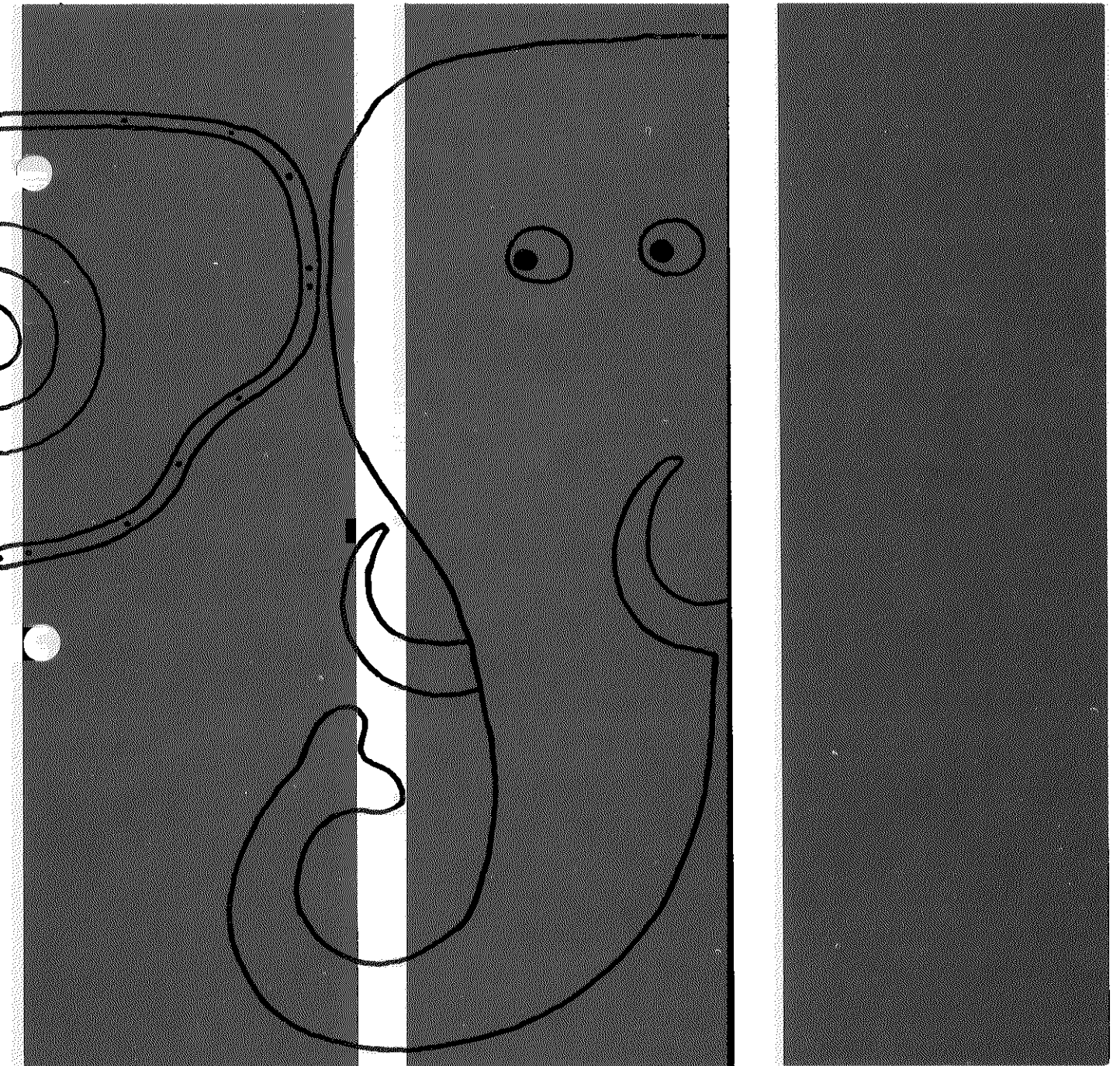


エレキトーンの回路、トランジスタをぜいたくに使っていますから音色が完全に安定しています。

ヤマハエレクトーンC-2Bは、メインアンプ、音源回路ともにオールシリコントランジスタを使用。オールプリント基板配線方法をとっています。C-2B型には380個のトランジスタが使われており他の部品とともにプリント基板28枚にわけて収めてあります。

それでは各部についての御使用上の留意点、働きの具合などをご説明しましょう。





1 音源回路

楽器の中核になる電氣的な音の振動は音源回路でつくられています。

ヤマハエレクトーンC-2B型はペダル鍵盤の最低音C₁(32.7サイクル)から上鍵盤の最高音b₄(3951サイクル)まで7オクターブ(84音)の音程を持ち、この(84通り)の音の振動を音源回路でつくり出しています。音源回路は12枚の基盤にわかれて、それぞれ12音(C, C#, D, …B)のうちの一つの音の系列を受持ちます。すなわち一枚の基盤の中に例えば、a₄(3520サイクル)a₃(1760サイクル)a₂(880サイクル)a₁(440サイクル)a(220サイクル)A(110サイクル)A₁(55サイクル)というようなオクターブ関係にある音の音源を持っているわけです。オクターブの関係は周波数(1秒間の振動数でサイクルという単位)でいうと2倍(あるいは1/2)の関係にあるので、これを利用して主発振器は一つの系列の最高音(例えばa₄)の発振を行ない、これを音源としてその系列の次高音(例えばa₃)は主発振器に隸属する分周器で周波数を1/2にして音源として

います。従って主発振器の調律を行えばオクターブの関係は自動的に合ってしまうわけです。調律は各基板に附属する発振コイルのコアをまわして行ないますがコアの左回転で周波数が高くなりますし、右回転で低くなります。

楽器全体の調律はいわゆる12音のわりふりを行うだけで簡単にできるのがエレクトーンの特長でもあります。主発振器はトランジスタ1個を用いた回路ですが、電圧、温度の変化や、湿度、トランジスタの経年変化などに対して十分考慮してありますので周波数は長期間安定していますから調律の必要はほとんどありません。分周器はトランジスタ2個を用いた回路でやはり主発振器と同様に安定して動作します。以上の全音源回路には167個のトランジスタが使用され、ここで作られる音(電氣的な)は開閉回路やキースイッチにつながっていきます。

2 ビブラート回路

ヤマハエレクトーンC-2B型では、コントロールパネルについているビブラートレバーの使い方の他に、エ

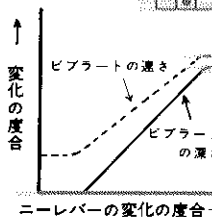
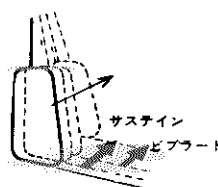
フェクトセクターとエフェクトニールバーコントロールの操作によるシンギングビブラートで継続的な演奏途上のビブラートに変化がつけられ、あのバイオリンなどの演奏に似ている、ビブラートの微妙な変化を求めることができます。このようにビブラートの速さ、深さの調節を合わせ用いることもできます。ビブラートの速さ、深さの調節を合わせ用いることによって、いままでより以上の表現が可能になったわけで、演奏者の夢がひとつここに実現されたわけです。

このシンギングビブラートの動作のしくみは下図のようになります。

3 開閉回路

ヤマハエレクトーンC-2B型のサステインは上鍵盤、足鍵盤にかかり

エフェクトニールバーコントロールを右ヒザで押す場合

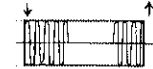


ますし、その上簡単な操作でサステインの長さが変えられます。まず手鍵盤から説明しましょう。

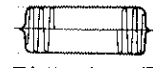
右ヒザでエフェクトニーレバーコントロールを押していただきますと手鍵盤にサステインがかかります。その長さは上鍵盤の左の拍子木にある“MAN SUS”のレバーで変えることができます。レバーを右にまわすとサステインは長くなります。サステインを長くして演奏する場合はスローテンポのピアノ曲が向きましょう。逆に早い曲のスタッカート奏法ときには短いサステインが適しましょう。足鍵盤は上鍵盤の拍子木の左から二番目の“PED SUS”のレバーを操作することによってサステインが得られます。手鍵盤と同様、

三拍子、二拍子のスローテンポのものにはサステインを長くし、軽快な曲(ジャズ ポピュラー)で早いテンポのものにはサステインを短くし、これにペダルアタックを併用することによりベースのピチカート奏法も期待できます。また、エクプレッションのテクニックと合わせて、チューバの、あの音の切れ目の独特の味が足鍵盤のサステインによって表現できます。

鍵を押したとき 鍵をはなしたとき



機械的スイッチ するとい音



電氣的スイッチ 滑らかな音

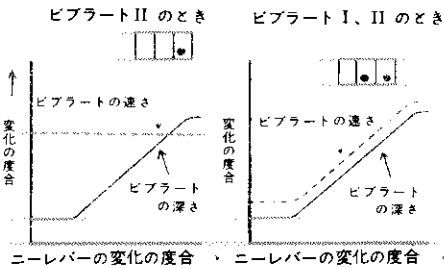


上の電氣的スイッチの音にサステイン効果をつけたとき減衰音がえられる

4 音色回路

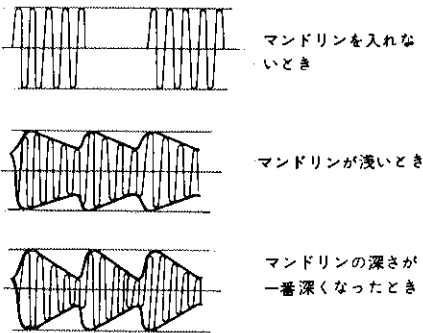
開閉回路を通った音は次に音色回路に入ってきます。音色回路は上鍵盤に6枚、ペダル鍵盤に1枚、計7枚のプリント基板に組み込まれています。音色回路はエレクトーンの最も特長ある部分でHi-Fi装置などにある音色調整のつまみと同じ原理で、トラ

ンジスタを使った、アクティブフィルター、コイル、コンデンサー、抵抗器を組み合わせて、入ってきた音の基音や各倍音の含まれる割合を自由に变えてさまざまな音色をつくり出します。ヤマハエレクトーンC-2B型の上鍵盤にはフルート、オルガン、クラリネット、プラス、オーボエ、ストリング。下鍵盤にはウッド、ホルン、チェロ、ストリング。ペダル鍵盤にはバス、チューバという名称を持った回路があります。音色回路を通してそれぞれの音色になった音はパネルにやってきます。コントロールパネルにはそれぞれの名称のトーンレバーがあり、これに連結してトーンボリュームがあります。トーンレバーは下に押し下げると音が大きくなりますが、途中クリックストップと言ってちょっと手ごたえのある箇所があります。これが調節の場合の目安になります。トーンレバーを調節し、組み合わせることによって違った音色を自由に無限につくることができます。一つの楽器でさまざまな音色を出したり、多彩な演奏のできるのはエレクトーンだけのものです。



5 マンドリン効果回路

ヤマハエレクトーンC-2B型ではマンドリン効果は深さをコントロールパネルで容易に変られますので、伴奏に使うときには曲のテンポを変えて演奏することもできますし、マンドリンソロの名演奏を再現することもご自由です。マンドリンの深さの変る様子を示したのが下の図です。



6 バランス回路

マンドリン効果回路を経た上鍵盤の音とコントロールパネルでまとめられた下鍵盤の音はバランス回路に入ります。バランス回路は上鍵盤の左にあるバランスレバーの操作によって上下鍵盤の音量を調節するためあります。

バランスのレバーを左に廻すと下鍵盤の音量は大きく上鍵盤の音量は小さくなり、右に廻すとこの逆になります。バランスは両方の鍵盤の音のバランスをとったり、一方を強調したりするために用いられ、演奏上なくてはならないものです。バランス回路を経た上下鍵盤の音はパネル部分で最終的にまとめられてプリアンプに入ります。

7 メインアンプ

プリアンプとメインアンプの中間にエクスプレッションペダルが入っています。エクスプレッションペダルはエレクトーン全体の音量を演奏者に思いのままに調節していただくためのもので、ダイナミックレンジの大きいこととあいまってエレクトーンの表現力をきわめて大きくしています。メインアンプはHi-Fi装置などと同じく音を大きくするためのものでオールシリコントランジスタを使用しており、プリント基板配線方式をとっております。また大きな音量が必要ときにはトーンキャビネットをエレクトーンに接続して使いますと音はエレクトーン本体とトーン

キャビネットの両方から出すことができます。トーンキャビネットから出る音はエレクトーン本体よりも大きな音量です。学校の講堂、ホールなどの広い場所で演奏する場合は、これを併用されるのが最適です。

8 エキスターナル(EXT)ジャック

メインアンプにEXTジャックがあります。レコードやテープの曲をエレクトーンから出し、これに合わせて競演を楽しむことができます。また先生の録音テープに合わせて運指練習もできますので部屋に居ながら個人レッスンが受けられるわけです。

テープレコーダーを図の様におつなぎください。エレクトーンの本体のEXTジャックの位置については、27頁のメインアンプをご参照下さい。

ご注意

1：接続して使用するテープレコーダやプレーヤーなどの種類により、再生音量に差があります。

2：テープやレコードと同時演奏される場合入力オーバーで音が歪むこともあります。このような時には、各々のボリュームを絞り歪まないようにしてお使いください。

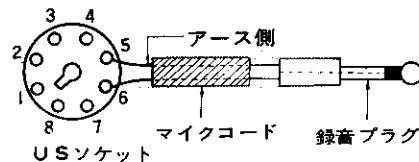
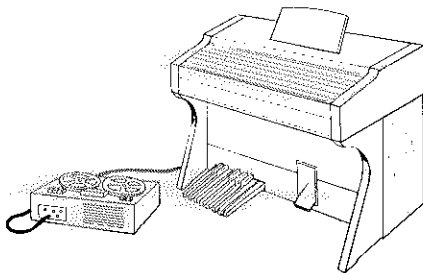
3：アンプ内部、その他の回路には絶対に手を触れないで下さい。

4：テープに録音される場合は、イヤホンジャック又は、トーンキャビ端子をお使い下さい。

5：イヤホンジャックをご使用の場合は、本体からの音は切れます。

6：トーンキャビ端子は次の様に接続下さい。

再生のとき
XTジャック
またはモニターなど



ソケットは、弊社支店、出張所又は販売店でお求め下さい。

うまく録音できない場合は、お買上げ頂いたお店に御相談下さい。

ヤマハエレクトーンC-2Bの保存法

エレクトーンC-2Bの保存法

一般的に他の楽器、例えばピアノとかオルガンと同じ取り扱いをしていたら、ほとんど問題はありませんが、特に電気部品を使用していますから次の点をご注意ください。

1：オールトランジスタ使用のため放熱はありませんが、使用後は電源スイッチを切り忘れないようにしてください。

2：日光の直射する所に置きますと色があせたり、木材の接着部分のがれる恐れがありますからなるべく避けてください。

3：その他、湿気の多い所、暖房装置の近くは避けてください。

4：鍵盤蓋の開閉はそのまま蓋の取手に手を添えて中に出し入れして下さい。蓋を上を持ち上げたり、蓋の上に重いものをのせないで下さい。

5：このエレクトーンの外装に使用している塗料は、ビニールと化学反応を起し、塗装面を傷つけることがありますので、ビニール製カバー等のご使用にならないで下さい。

椅子の組み立て方

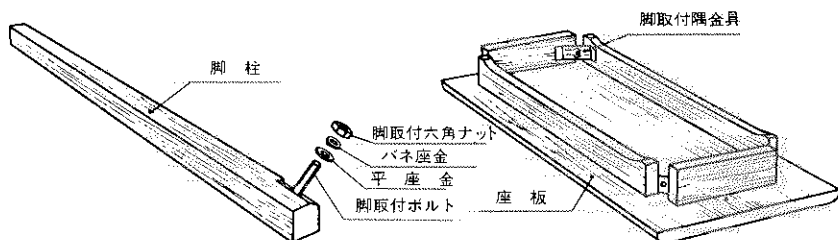


図 1

図 2

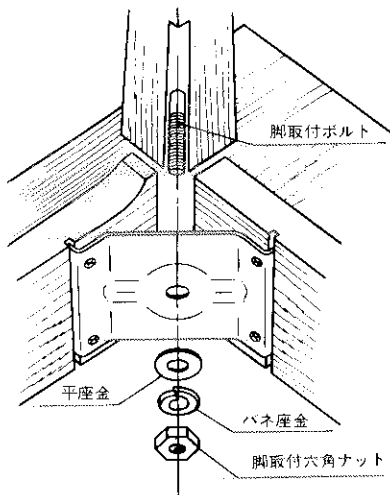


図 3

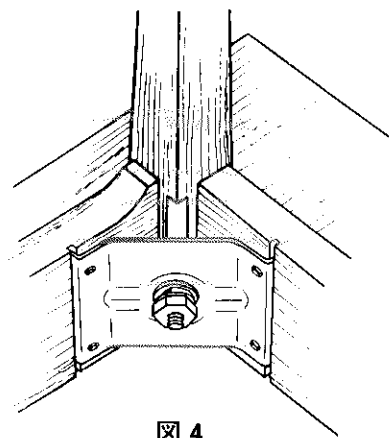
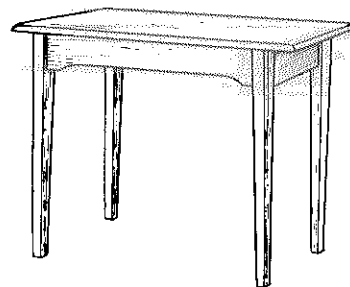


図 4



組立完成

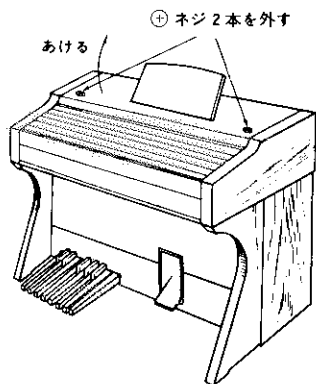
ヤマハエレクトーンC-2Bの調整法

エレクトーンC-2Bの調整法

エレクトーンC-2Bはマンドリンの速さ、ピブレードの速さなど、あらかじめ標準状態に調整してありますが、お弾きになる方の好みに合わせて調整いただけるようになっています。また他の楽器とピッチを合わせる必要が生じた場合などエレクトーン技術者でなくても必要に応じて簡単に調律できるよう配慮してあります。トランジスタ回路になっていますから電圧が低く感電の心配はまったくありません。

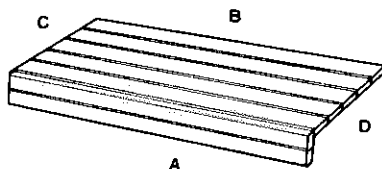
調整のためのエレクトーンの開け方

および調整箇所は内部にあります。ドライバーで図示の通り天屋根部分の⊕ネジ2本を外すだけで心臓部が現われます。



手順

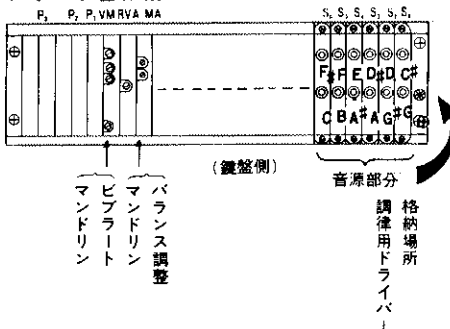
- 1: 天屋根のネジ2本を外して開ける。
- 2: スライド蓋を引き出し外装にキズをつけない様静かに取り外して下さい。
- 3: スライド蓋の持ち方
A B点を持ち C D点は持たないで下さい。



各部調整方法

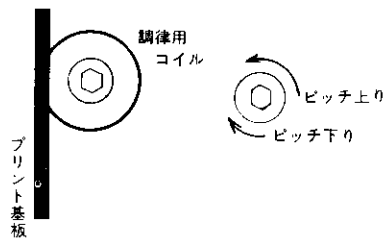
各部の調整には、必要以外のところに金属で触れないでください。場合により回路部品が損傷することがあります。

プリント基板格納図



1: 調律の仕方

プリント基板格納図でおわりの通り右側6板のプリント基板が音源になります。図の丸い部分が調律カ所でプリント基板止めわく右端に添付の特殊ドライバーを使って調律いたします。聞きわけやすい音色(例えば上鍵盤フルート8'など倍音の少ない音)で中央の1オクターブを使うのがいちばん良く、1オクターブを合わせるだけで上から下まで全部調律されます。ネジの回転方向は左回転でピッチが上がり、右回転で下がります。



ご注意

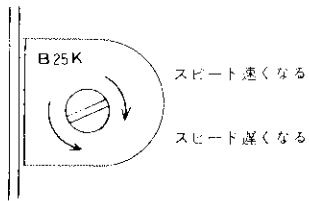
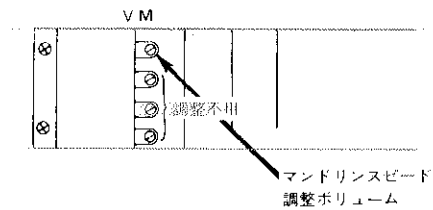
ふつうの場合半回転以内で5サイクル程度変化しますので、廻しすぎないようにご注意ください。廻しすぎて元の位置がわからなくなることがあります。

通常、ピッチの狂いはありませんが万一極端に狂ったような場合は故障ですからネジを廻しても直りません。

このような場合には手を触れずに、お求めの楽器店にご通知ください。

2：マンドリンスピード調整

プリント基板格納図中ビブラート、マンドリンシート(VM)の中に調整用のボリュームがあります。

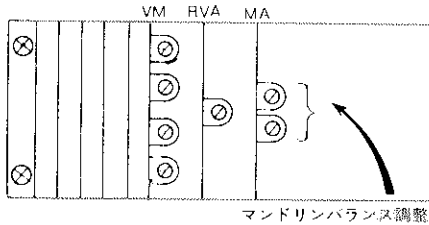


矢印のボリュームつまみを右に回転すると速くなり、左に回転すると遅くなります。

3：マンドリンバランス調整

マンドリンの速さやかかり具合と直接関係ありませんが、トーンレバーを入れずにマンドリンレバーのみを入れ、エクスプレッションペダルを最大に踏みこんだとき、小さくポト

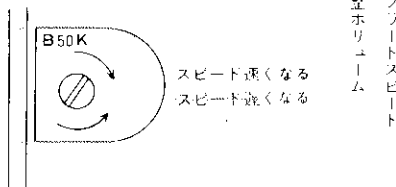
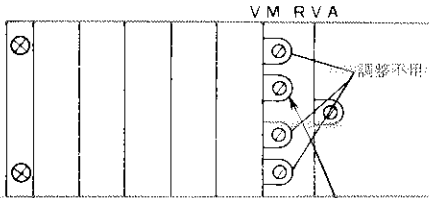
ポト音のすることがあります。万一気になる位音の出るようなときにはマンドリンバランス調整ボリュームで調整できます。



この調整は2個のボリュームで行います。それぞれのボリュームを少しずつ回転させて雑音がいちばん小さくなる点にセットしてください。

4：ビブラートスピード調整

マンドリンスピードと同じプリント基板にあり、右回転で速くなり、左回転で遅くなります。



矢印のボリュームつまみを右に回転すると速くなり、左に回転すると遅くなります。

こんな場合は故障ではありません

下記のような故障ではない故障でサービスを依頼された場合には、保証期間中であっても実費料金を頂きます。

○スイッチを入れた瞬間ボンと音がする……………

メインアンプ内部に電気が流れた為で、エレクトーンが作動する証拠です。安心してお使い下さい。

○16' 8' 4' 各々のカプラーによって発音位置が異なる……………

実用上支障のない範囲に精密調整してあります。一般に多くの音栓を持つオルガン、パイプオルガンやエレクトーンでは同時発音が難しく、同時発音しないのが実状です。

○4' 時最高音のC (F) が出ない……………
音源がB (シ) 迄となっておりますので音が出ませんが別に故障ではありません。

○ベース鍵盤は同時に2音を押しても1音しか出ない……………

ペダルサスティンをかけた時に、前の音と後の音が混りきたない音になります。

これをすんだきれいな音とする為、前の音が鍵盤を押した瞬間に消える様なくみになっております。

同時に2音押すと高音の方のみ（高音優先）音が出ます。

○音が割れる（共鳴する或はビビル）

エレクトーンの音は持続音ですから周囲の戸棚、窓ガラスその他の器物に共鳴する事が多くあります。

音量を小さくするか又は共鳴物を取り除けば防止出来ます。

○時々雑音が入る（ガリツとかボツツという雑音）……………

原因は、家庭の電気冷蔵庫、洗濯機電気コタツ、揚水ポンプ等々……の電気器具の電源入、切り時或は市街地でのネオンサイン故障、電気ドリル等から誘導して起る場合が多くあります。

電気製品が原因の場合は、原因と思われる器機から出来るだけ遠くのコンセントをお使い下さい。

気にならなければ別にエレクトーンには支障ありませんのでそのままお使い下さい。

又ネオン、蛍光灯等の故障で発生している場合は修理すれば直ります。

原因不明の場合及びご不審な点がございましたら、お求めの楽器店或は日本楽器各支店出張所エレクトーン技術係宛御相談下さい。

○ペダル鍵盤ではピッチが高く、上鍵盤高音部では低く感じる……………

特にピアノと比較した場合に感じるもので、音色を形作る倍音構成の違いから生じます。

即ち、ピアノでは倍音構成が複雑で（特に高音、低音では）実音での調律が出来ず、倍音を聞いて調律致します。しかしエレクトーンでは、倍音構成が整数倍になっておりますので、逆にピアノの様には調律出来ず、実音で調律致します。

この様にピアノとエレクトーンでは本質的な相違があります。

エレクトーンと同じ調律の行われているものにパイプオルガンやリードオルガンがあります。

○ラジオやテレビ等の電波が入る……………

近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局がある場合にこの様なことが起きます。

どうしても気になる場合には、お求めの楽器店或は日本楽器各支店出張所エレクトーン技術係宛ご相談下さい。

○電源を入れたまま、エレクトーンに大きな振動やショックを与えると大きな雑音が出る……………

これは、内蔵のリバースレーション装置に振動が伝わって起るものです。

このリバーブレーション装置は柔らかいスプリングを使用しておりますので、使用中は大きな振動やショックを与えない様にして下さい。又エレクトーン設置にあたっては、ぐらつかない様に設置して下さい。万一移動する必要が生じましたら、電源スイッチを切るか、リバーブレバーを右に回して、リバーブをかからない様にしてから移動して下さい。

○同じ音色で弾いたとき、鍵盤により音量のバラツキがある……………

一般に電子楽器では、音色を変えるという本質的な要素を持つため、音色による各鍵盤の音量バラツキをなくすることが非常に難しいわけです。エレクトーンではどの音色に変えても演奏上問題のない様に設計、調整されております。

しかし音の強さや音色はエレクトーンの設置場所の状態や聞く位置などによって、大きく異なることがありますので、どうしても気になるときはお求めの販売店或は日本楽器各支店出張所エレクトーン技術課宛にご相談下さい。

○白いトーンレバーを入れて、鍵盤を押すと音が出る時にプツツ(ポツツ)という雑音が入る……………

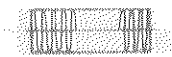
これは、音の信号を直接鍵盤の下に

あるスイッチで入り切りする時に発生するもので、専門的にはクリックと呼んでおります。

このクリックは弾く曲により、例えばスローテンポでムーディーな曲では悪者扱いされますが、パンチの効いた早い曲では非常に貴重で、なくてはならない存在となります。

本質的にこのクリックをなくすることが出来ませんので、エレクトーンC-2B型では

スローな感じの曲はグレーのトーンレバーを中心とし、パンチを効かせたい曲には白いトーンレバーを入れる様にしてご使用下さい。



白のトーンレバーによる信号の波形。



灰色のトーンレバーによる信号の波形。

○エレクトーンに鼠が入って故障を起した場合……………

エレクトーンの内蔵に鼠が入り束線その他を切ったりすることにより故障が発生した場合には保証期間中でもサービス料金を頂戴致します。

鼠の入るおそれのあるところはお求めの楽器店或は日本楽器各支店出張所エレクトーン技術係宛ご相談下さい。

談下さい。実費にて防鼠処置をさせていただきます。

○ブリリアンス効果がフルート系(ウッド)の音でできない。

ブリリアンスは抵抗とコンデンサの組合わせによって、高域の倍音をカットする為に、フルート系の音(フルート4',8',16',ウッド4',8')の様に倍音の少ない音や、ペダル鍵盤の様に低い音には効果がかかりません。ブリリアンス効果はストリングやオーボエ、ブラス等の倍音の多く含まれた音により強く作用致します。

○ヘッドホーンで練習のとき、“ブーン”という電気の雑音(ハム)が気になる……………

本体のスピーカーで音を出している時には、あまり気になりませんが、ヘッドホーンを使って練習する際、“ブーン”という電気のうなり雑音(ハム)が気になることがあります。この様な時は、エレクトーンの電源プラグをコンセントへ逆に差し込んでみて下さい。雑音(ハム)が防止出来ます。

ヤマハエレクトーンC-2Bのヒューズ交換

1：ヤマハエレクトーンC-2Bのヒューズ交換

通常の場合、ヒューズの切れることは、ありませんが、内部の故障や電源の異状ショック、また、長い間使用してヒューズが弱ってきた場合など、切れることがあります。万一切れた場合には、内部メインアンプ部分の手前側板にサービスヒューズが2本用意してありますのでお取り換えいただくことが出来ます。前板を外しますと、アンプが右側にあります。交換してもすぐ切れるようでしたら、内部が故障していると考えられますので、アンプの内部には、手を触れずお求めの楽器店にご通知下さい。エレクトーン技術者が直ちにお願いします。

(ご注意)

メインアンプは、3本の普通ヒューズが使われています。各々、電流

容量2.0Aのガラス管入りヒューズです。

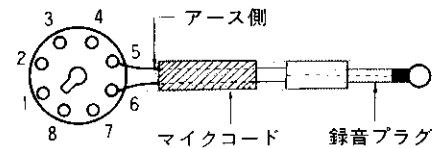
ヒューズは必ず同じ、電流容量のものを用いて下さい。ヒューズを使わず、針金や銅線などの代用は絶対にしないで下さい。万一使用致しますと、内部を損傷致しますから、くれぐれもご注意下さい。ヒューズ交換の際は、必ず電源コンセントを抜いて、三本のうち、どのヒューズが切れたかを確認して交換して下さい。

2：エキスターナルジャック

再生時に図2のようにエキスターナルジャックは、エレクトーンの裏側より直接、接続できますので、裏蓋、前板を取り外す必要はありません。

(ご注意)

- (1) 接続して使用するテープレコーダーやプレーヤーなどの種類により、再生音量に差があります。
- (2) テープに録音される場合は、イヤホンジャック又は、トーンキャビ端子をお使い下さい。尚、イヤホンジャックをご使用の場合は、本体からの音は切れます。又、トーンキャビ端子は次の様に接続下さい。



USソケット

ソケットは、弊社支店、出張所又は販売店でお求め下さい。

うまく、録音できない場合は、お買上げ頂いたお店に御相談下さい。

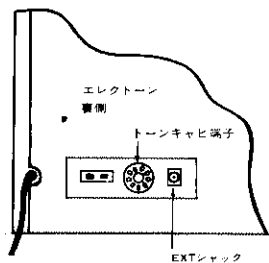


図 2

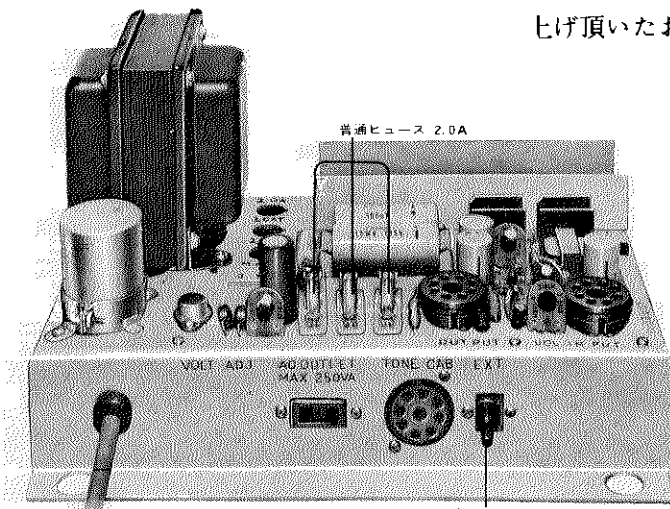


図 1

エキスターナルジャック=再生時にこのジャックを御利用下さい。

ヤマハの保証とサービスシステム

保証

エレクトーンのご購入より満一カ年といたします。但し、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内にてのみ有効と致します。

保証書

エレクトーンのご購入調整サービスの際、納入調整者が、保証書内へ必要事項記入の上、お客様にお渡し申し上げます。

保証書をお受取りの際は、お客様のご住所、お名前、お買上げ 月 日 販売店名……等を必ずご確認下さい。無記入の場合は無効になりますのでくれぐれもご注意ください。

納入調整サービス

エレクトーンをお納めさせて頂きますと、販売店からエレクトーンのご説明かたがた、お納めしたエレクトーンの調子を最良の状態にするよう点検調整にお伺い致します。

お求めのエレクトーンについて、ご不明の点およびお聞きになりたい点がございますらその節にお願い申し上げます。

アフターサービス

1：保証期間中に万一故障が発生した場合には、ヤマハ特約楽器店、小売楽器店に、ご連絡いただきますと販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整修理にお伺いします。

調整いたしました際には、必ず保証書をご提示ください。ご提示なき場合、或は紛失なされた場合には、保証期間中でも有料となりますからご了承ください。

尚、この保証書はサービスにお伺いした際今後の製品改良の貴重な資料とする為技術者がお預り致します。お預りした保証書は弊社支店に送られ、記録した後各支店から直接お客様にご返送申し上げます。この間約1週間～10日間程度を要しますが、ご心配なくお待ち下さる様お願い申し上げます。

2：お買上げ楽器店より遠方に移転される場合は事前にお買上げ楽器店或は弊社支店にご連絡いただきますと移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行う様手続き致します。

保証期間後のサービス

満1カ年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますがいつでも責任をもってサービスを致します。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様ご連絡いただきましたら移転先の楽器店をご紹介いたします。

ヤマハエレクトーン保証書 MODEL C-2B	
製造番号	
このたびは、ヤマハエレクトーンをお買上げ頂きましてありがとうございます。このエレクトーンは厳格な検査を経て出荷されておりますが、万一製造上の不備による自然故障の際は裏面の保証規定により無償にてご調整申し上げます。	
お買上げ日	昭和 年 月 日
保証期間	1 年 間
【保証書のご使用方法】	
1 この製品の保証期間内に故障の際は、本誌サービスセンターにご相談下さい。	
2 この保証書は、サービスにお伺いの際、今後の製品改良の貴重な資料とする為、技術者にお預り致します。	
お預りした保証書は、日本楽器製造株式に送られ、記録した後各支店から直接お客様にご返送申し上げます。この間、約1週間～10日間程度を要しますが、ご心配なく、お待ち下さる様、お願い申し上げます。	
〒100 東京都千代田区千代田10番1号	
日本楽器製造株式会社	

演奏はこうして

演奏の姿勢

すべての楽器の演奏は、基本の姿勢が大切です。最初によくマスターして、
（よ）らしい演奏をお楽しみください。

- 1：楽器の中心に座ります。椅子の前半分位の位置で楽な姿勢です。からだの重心は少し右側によせ、左足が楽に動かせるようにしてください。
- 2：主に右手は上鍵盤（メロディパート）左手は下鍵盤（伴奏パート）左足はペダル鍵盤（ベースパート）を演奏します。それぞれ鍵盤全音域にとどくように確めてください。

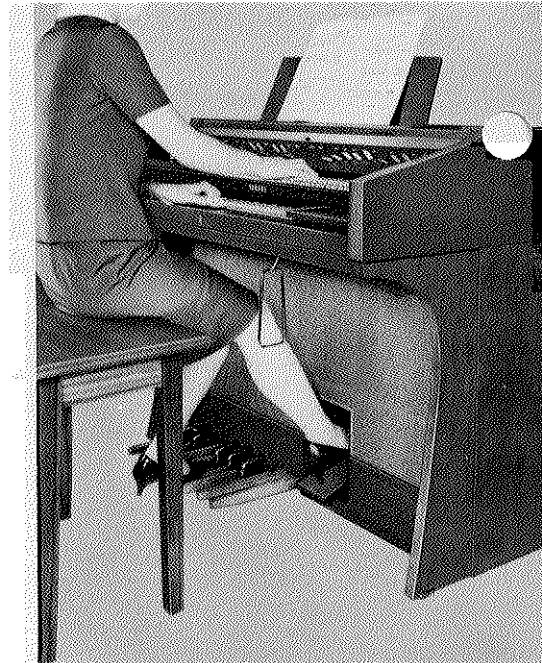


3：左足は力を入れずに下脚が左、右にらくに動き、足首は力をぬき、つま先が黒鍵の手前を軽く押すように演奏します。

4：右足はエクスプレッションペダルにのせます。足首の力をぬき足底全面がペダルに密着するように、そして、いっばいに踏みこんだときと上げた時とのその間の動作がすべて楽に動かなければいけません。

ご注意

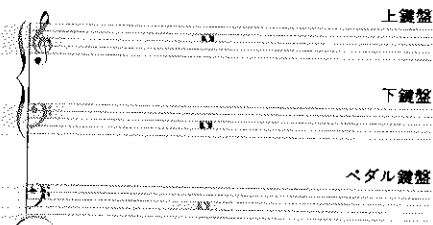
からだが固くなっているとよい演奏ができません。バランスがとれないからです。そういうときは、音もぎこちなく聞こえます。無理のない自然な姿勢で演奏しましょう。



演奏はこうして……

楽譜について

エレクトーンの楽譜は3段に書かれています。この場合、特に指定のないかぎり、いちばん上段が上鍵盤、2段目が下鍵盤、いちばん下がペダル鍵盤のための譜になっていて、それぞれ、右手、左手、左足で弾きます。ふつう上鍵盤は高音部記号、下鍵盤とペダル鍵盤は低音部記号で書きます。



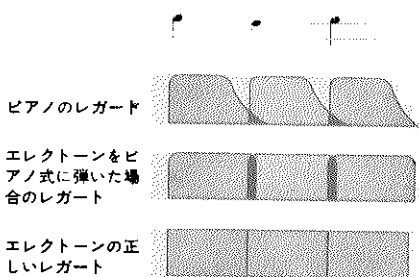
ペダル鍵盤の音は、実音より1オクターブ高く記譜されています。(コントラバスの場合と同じです) 練習曲の音符には、ピアノと同様に運指のための五指の番号がついています。大体はピアノの譜に準じて読めばよいのですが、エレクトーンの譜には特に音色の変化を指定する記号があることにご注意ください。くわしくは、後の「エレクトーンのための記譜法」をご参照ください。

タッチについて

いままでピアノを弾いていた人が、エレクトーンを弾いてみて、いちばんとまどうのはタッチの違いでしょう。特に、レガートとスタッカートは大変に違ってきますからご注意ください。

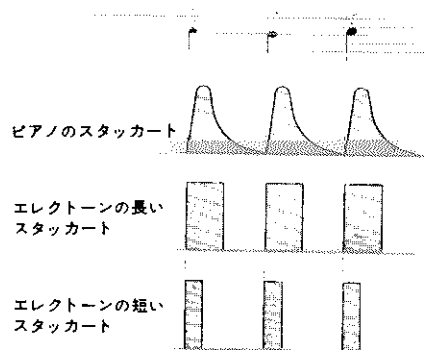
1：レガート

ピアノの場合、キーをたたくと、そのキーが下がり切ったあたりでハンマーが弦をたたきます。つまり弾く動作よりある程度遅れて音が出ているのです。ところがエレクトーンではキーをはんの少し押し下げただけで音が出ます。そしてキーを離す瞬間まで同じ強さの音が続いています。ですから、エレクトーンをピアノ式のレガートで弾くと音の前後が重なって汚い音になります。ピアノとは違うタッチで正しいレガートが弾けるように練習してください。



2：スタッカート

スタッカートもまたピアノとは大変に違います。ピアノではふつうキーを打ち逃げするので、音は一瞬だけであとは固有の減衰をします。ところがエレクトーンでは、キーを押している時間によって音の長さが変えられます。つまり、いろいろな程度のスタッカートが使い分けられるのです。



トーンレバーの操作について

エレクトーンでは、演奏をはじめる前にトーンレバーを入れておかねばなりません。これをどう組み合わせで入れるか。つまり音色をどう決めるかは、ふつう楽譜の最初に指定されています。曲の途中でもトーンレバーを入れかえれば、いっそう変化がついて面白くなります。

曲の途中での操作に左右どちらの手

を使うかは、編曲によって違って来ますが、メロディが途切れないように、そのときの都合のよい方の手に入れかえればよいのです。

トーンレバーの入れ方によっては、上鍵盤と下鍵盤の音量がアンバランスになることがあります。そのときは баланサーを使って調節します。

エクスプレッションについて

音の強弱、つまり音楽の表情は、右足のエクスプレッションペダルによってつけます。クレセンドのときはごくゆっくり、静かに踏みこみます。ディミネンドのときは、ゆっくりと戻します。しかし、このペダルをあまり使いすぎてはいけません。エクスプレッションは、音楽の自然な流れにそって、わざとらしくない程度につけてください。

ヘッドホーンジャックについて

鍵盤の右手下側には、練習のためのヘッドホーンジャックがついています。これにヘッドホーンを接続すれば、音は外に出なくなります。夜でもひとり静かに心ゆくまで練習ができます。

マニュアルキー(手鍵盤)の弾き方

ふつう手の形は、一度にぎって手を軽くひろげ指を立てた状態にします。

この形は指を早く動かすためにも必要で、あらゆる有鍵楽器に共通の模範的な形です。

美しくエレクトーンを弾くには、正しい指使いをしなければなりません。エレクトーンはピアノと違い指を離れた瞬間に音が切れてしまいます。ですからレガートに弾くには、次に弾く音(鍵盤)の上に指が用意される必要があります。

●原則として2度は隣の指で

●5度以内は5指を有効に

●5度以上の順次進行は音階の指使いで

●指の拡大はなるべく1-2、1-4、1-5指の間で

●黒鍵はなるべく長い指で(2, 3, 4指) もちろん曲により例外もたくさんありますが、ひとくちに言えば合理的な指使いが必要なわけです。

レガート

1：スラー(へ)のついているフレーズや、何も書いてない場合(メロディパート)は原則としてレガートに弾きます。

2：始めから終わりまで全部レガートに弾いてはかえってその効果が少なくなります。フレーズの切れ目でち

よっとプレス(息つき)が必要です。それがレガートをよりいっそう効果的にします。

3：鍵盤が軽いからといって軽くキーを押えますとかえってレガートになりにくいのです。形を正しく、しっかりと弾きましょう。

4：指使いが難しくレガートになりにくい所や、早いパッセージなどで指がうまく動かない時は半音上げるか、半音下げるか、移調して練習すると効果があります。

5：重音のレガートはしばしば指変えが必要です。重音のパートをとり出して練習しましょう。

ご注意

自分ではレガートに弾いているつもりでも、実際には音が切れていることがしばしばあります。レガートは特に注意しましょう。

スタッカート、デタッチュ

1：エレクトーンはキーを押している時間によって音の流れが自由に変わられます。ですから、いろいろな程度のスタッカート、デタッチュができます。

2：左手のリズム伴奏の時はとくに指定のない場合でも、スタッカート、

デタッチで表します。一般的にリズム的な感じの曲では短かめに、またゆっくりとした曲では、長めの方が効果があります。実際にはいろいろな長さで演奏してみて、メロディパートに合う長さで演奏するようにしましょう。

3：メロディパートは指定のある時に弾きます。

ご注意

手の形を正しく、鍵盤の底に届くようにしっかり弾くクセをつけましょう。

アクセントペダルの使い方

フレーズのアクセント

1：自然な音楽を創るために、フレーズの入りは弱めに、またフレーズの終りも少し弱めにすると美しく聞こえます。

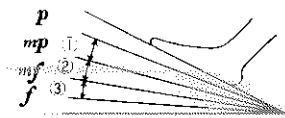
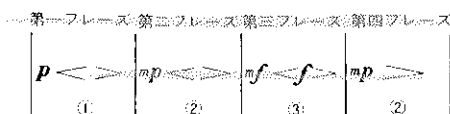
2：フレーズのアクセントは急激な操作ではなく、少しずつゆっくり操作します。

3：メロディパートは歌うような軽やかな表情をつけます。メロディをよく聞きながら表情をつけます。)

4：Cress の時は少しずつ操作しやすいのですが、dim の時に早くなりやすいので気をつけましょう。

曲全体のアクセント

1：楽曲はいくつかのフレーズが集まって一曲を構成しています。ですから曲主体に *f* のフレーズは強めに、*p* のフレーズは弱めに、つまり全体のバランスを大切にしましょう。



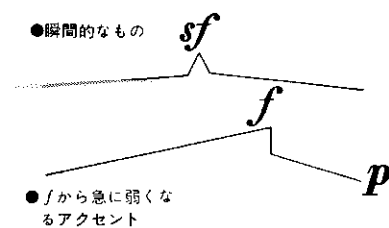
2：無理なくアクセントペダル全体を有効に使いましょう。

ご注意

波がうつような不自然な音は、みな右足の操作がスムーズでないことが原因です。聞いていて自然な感じの美しい音楽を創りましょう。

アクセント 1

1：急激に踏みこみそしてもどすとアクセントになります。



2：いつもアクセントをつけると全体の感じはアクセントになりません。
3：もどす時はすばやく操作します。
4：始めはアクセントをつけず、フレーズのアクセントが十分身につけてから操作するようにしましょう。

アクセントペダルのご注意

1：踏み込む時はやさしいのですが戻す時が急激になりやすいものです。
2：1拍、1小節ごとに波を打ったような表情にならないように注意しましょう。

3：Crescendo の時、強拍の所がいばん強いのが自然です。

4：曲全体の表情は初めのうちは意識的につけて、なれきたら、無意識に自然な表情がつけられるようにしてください。

5：同じ曲でもテンポによっては表

情のつけ方が少々違ってくる場合があります。

6：リズムミクナ曲は小さなアクセントがあってもよい感じのものになります。

楽しい曲は心から楽しそうに、悲しい曲は静かな感じに、だれでもがその曲想を自由に表現できること、しかも、ちょっとした操作でそれのできるのが、エレクトーンC-2Bの大きな特長です。

ペダル鍵盤の奏法

1：座る位置をいつも同じにしましょう。1オクターブ以上キーがある時に、からだの中心の音よりも4度下の音が（すなわちfに座るとc）左足の真下の音になります。しかしからだの大小により多少異なりますが、このエレクトーンの場合、足鍵盤がオクターブですので、cかdの所からだの中心を持ってきますと左足はGかAの所にくるはずですが、ですから常に同じ所にすわることによって足鍵盤を見ないでも、いつも同じ音を正確に弾くことができます。その音が足鍵盤の演奏の中心の音になるわけです。

2：ひざから下が時計の振子のよう

にヒザを中心にらくに左右に動くのが上手な弾き方です。

3：演奏は足首でします。ヒザを上下すると足が疲れやすく、また、早いテンポの曲の演奏が困難になります。踏む位置は白鍵の真中より少し奥を踏み、足の指のつけ根が白鍵の真中になるようにします。

4：演奏中足鍵盤を見ますと、姿勢がくずれ、ヒザを開いてのぞき込むと足に不自然な力が入ります。いずれもよくない弾き方です。

5：練習を始める前にペダル鍵盤だけのリズム練習、音階練習はペダル鍵盤の上達に大変有効です。

ご注意

足鍵盤を弾くとき、初めに悪いクセをつけますとなかなか直りにくいものです。初めから注意して自然でらかな正しい奏法を早くおぼえるようにしましょう。

足鍵盤奏法のご注意

1：すわる位置が前過ぎ、ヒザが前に出たり、その逆になったりしがちです。

2：Gより上の音（A、B、C）を弾く時にカカトが内に入り、ヒザが外側を向くことがよくあります。

3：下のC（c）を弾く時はヒザが内

側を向き下脚に不自然な力が入りやすいものです。

4：短かく切る時（スタカート、デタッチ）必要以上にツマ先が上がらないようにしてください。

5：すわる位置が不定ですと、鍵盤の位置がいつまでも覚えられないので上達が遅れがちになります。

6：ヒザが上下するのは、足首に力が入っているためです。もっと楽な気持ちで弾きましょう。

7：たたきつけるような演奏になる（足全体に力が入る）のも、まだ足の動かし方が不自然だからです。

8：ハイヒールをはいて演奏する時は必要以上にカカトが上がりやすく（ヒールは鍵盤にかからない）も、はいっそうむずかしくなります。

9：恐る恐る演奏すると、かえって音程がとりにくくなります。

10：練習時にはペダル鍵盤の音量を少し大きめにしましょう。

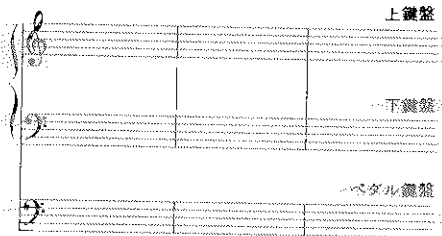
足鍵盤は間違えずにらくに弾ければよいのです。足のどこかが痛いのは必ずどこかに不自然なところがあるからです。ちょっとした注意でらくに弾けます。あとは練習です。恐れずに堂々と演奏しましょう。

ヤマハエレクトーンC-2Bの記譜法

ヤマハエレクトーンC-2Bの記譜法

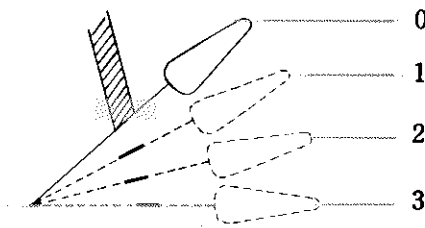
1：エレクトーンの記譜について

エレクトーンの譜面はふつう3段になっています。この場合、特に指定無いかぎり、上段を右手で上鍵盤、中段を左手で下鍵盤、下段を左足でペダル鍵盤を演奏します。



線は中段と下段の間には引きません。
鍵盤の指定については後述します。

2：トーンレバーの指定



上鍵盤のトーンレバー

Flute 16' Oboe 8'
Flute 8' String 8'
Organ 8' Flute 4'
Clarinet 8' String 4'
Brass 8'

以上のトーンレバーの指定は、前に図示したスリックストップの位置であらわします。記入する数字の順序は実際のトーンレバーの配置順序と同じですが Flute16' と Flute8' の

間及びString 8' と Flute4' の間に一を入れます。

下鍵盤のトーンレバー

Wood 8'
Horn 8'
Cello 8'
Wood 4'
Cello 4'

上鍵盤のトーンレバーと同様ですが Cello 8' と Wood 4' の間に一を入れます。

数字と音色の関係は上鍵盤の場合と同じです。

ペダル鍵盤のトーンレバー

Bass 16' Tuba 8'
Bass 8'

Bass 16' と Bass 8' の間に一を入れます。

3：エフェクトレバー(黒)の指定

Brilliance (略号 Brill)

フルート16' フルート8' オルガン8' クラリネット8' ブラス8' オーボエ8' ストリング8' フルート4' ストリング4'

1-300203-03

Mandolin (略号 M.)

Vibrato (略号 Vib.)

Attack (略号 A.)

以上のレバーは略号を用いてクリックストップの位置、0、1、2、3、で記されます。例=Bril3 M.3 Vib.0 A.2 但し、Brilliance、Mandolin、Attackは使用する時のみ記入します。従ってBril0 M.0 A.0 とは記されません。Vibratoのみは使用されないときでも Vib.0と記します。

4 : その他のエフェクトレバー及び バランサーの指定

上鍵盤左の4つのレバー

Reverb (略号 R.)

Pedal Sustain (略号 P.S.)

Manual Sustain (略号 M.S.)

Manual Balance (略号 M.B.)

は略号と矢印を用いて記入します。

R. P.S. M.S. M.B.
• | • | • | • |

5 : エフェクトセクターの指定

下鍵盤右のエフェクトセクターは略号で記入します。

Manual Sustain (略号 S.)

Vibrato I (略号 Vib. I)

Vibrato II (略号 Vib. II)

6 : 曲頭におけるレバー、バランサーの記譜

曲のはじめにセットするレバー、バランサー、セクターはまとめて楽譜左上に記入します。

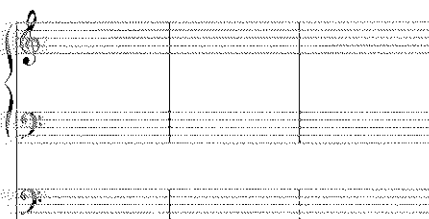
1-300203-03 M.3 Vib.0

030-21

3-22 A.2

S Vib. I

R. P.S. M.S. M.B.
• | • | • | • |



7 : 曲中におけるレバー、バランサーセクターの変更

トーンレバーの変更は、はじめの指定と変わるレバーの数字にアンダーラインを引きます。

例 1-000203-33

Mandolin 及び Attackのレバー変更は指定した数字の変更であらわします。但し0にするときはM-3のように指定の上に横線を引きます。

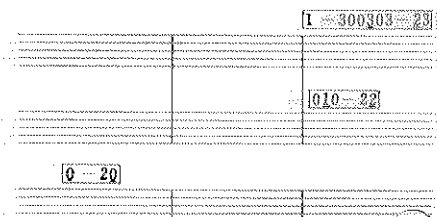
Vibrato のレバー変更は数字の変更で示します。

左のレバーR. P.S. M.S. M.B.は、^Rのように変更された後のレバー位置を矢印で記入します。

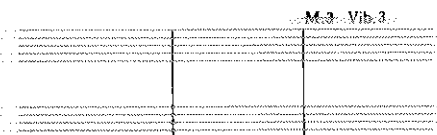
エフェクトセクターはONにした位置にS.Vib IIのように記し、Oにした位置でS.Vib. IIのように示します。

8 : 記譜位置

上鍵盤トーンレバーの変更は上段の上。下鍵盤トーンレバーの変更は中段の上。ペダル鍵盤トーンレバーの変更は下段の上とします。

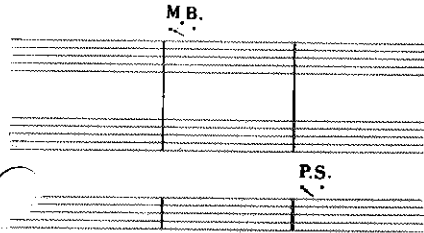


Mandolin、Vibrato のレバーの変更は上段の上に Attack の変更は下段の上に記します。



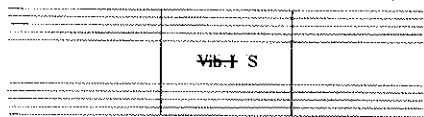
A. 3

Reverb, Manual Sustain, Manual Balance の変更はやはり上段の上に記します。また Pedal Sustain の変更だけは下段の上に記します。



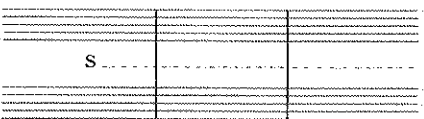
エフェクトセレクターの変更は中段の上に記入します。

ONにする位置で略号を、又OFFにする位置で略号の上に横線をひきます。

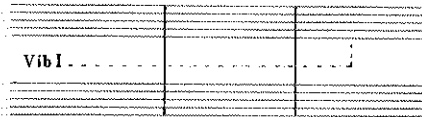


9. ニーレバーを使ったエフェクトの指定

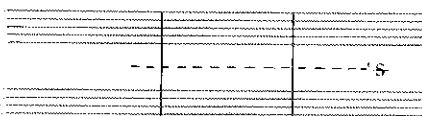
ニーレバーを使用して Sustain 又は Vibrato をうる場合は上段と中段の間に.....を使って記録します。



ニーレバーをもとの位置に戻す場合は.....で示します。



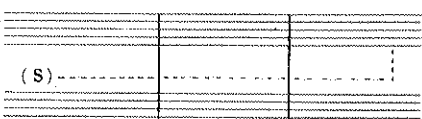
又、ニーレバーをもどすと同時にセレクターをOFFにする場合は.....Sとします。



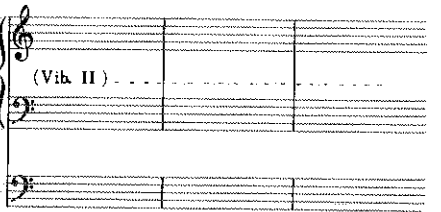
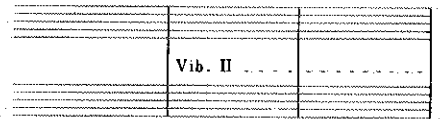
全曲を通して、または長い間レバーを押し続ける場合は *sempre* で記します。



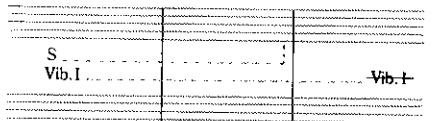
その場合切る時に数小節前に S.....を記入します。



次の段まで続ける時は下のように入します。

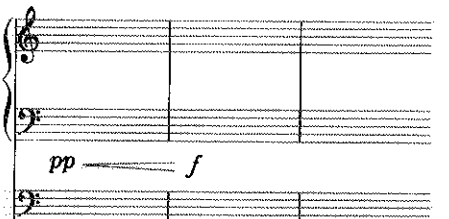


Sustain と Vibrato を同時に得たい時には次のようにします。



10. 発想記号

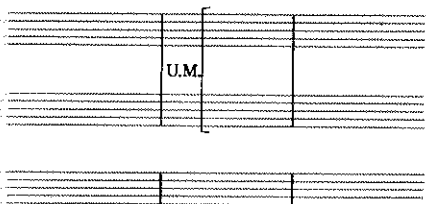
pp *mf* *dim* などの発想記号は中段と下段の間に記入します。



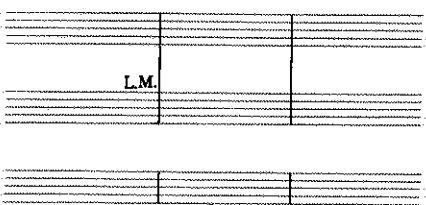
11: 上鍵盤、下鍵盤と上段、中段との関係

原則として上鍵盤の音を上段に下鍵盤の音を中段に記入しますが、演奏法によって変わる場合には次のように表示します。

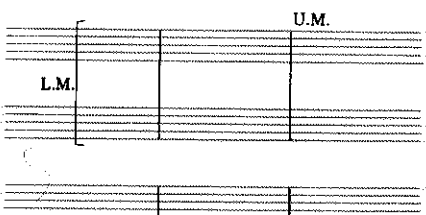
両手で上鍵盤を弾く場合には下図のように記入します。



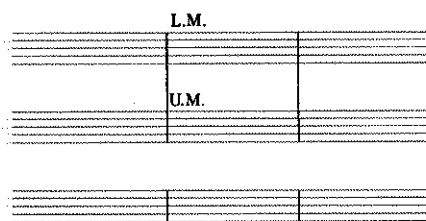
ふつうの演奏法にもどる場合は中段にL.M.と記入します。



この逆の場合、すなわち、両手で下鍵盤を弾く場合は下図のように記入します。



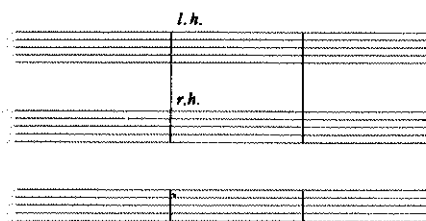
上鍵盤の音を中段に、下鍵盤の音を上段に記した方が明らかに音楽的に理解しやすい場合には次のように示します。



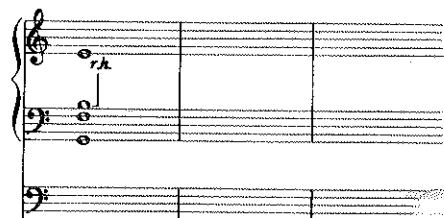
12: 右手・左手と上鍵盤・下鍵盤との関係

特に指定がない時は原則として上鍵盤を右手で下鍵盤を左手で演奏しますが、演奏法の都合で変わるときは次のように表示します。

上鍵盤を左手で下鍵盤を右手で演奏する場合は下図のように記入します。

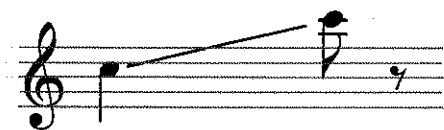


右手で上鍵盤を弾きながら、部分的に下鍵盤を同時に弾く場合は、次図のように表示します。



13: グリサンドの指定

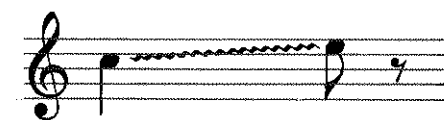
白鍵上のグリサンドは直線で指示します。



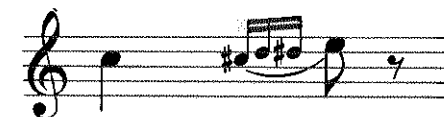
この場合、音は下図のようになります。



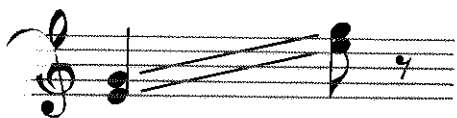
黒鍵の音も含むグリサンドは~~~~で指示します。



この場合、音は下図のようになります。



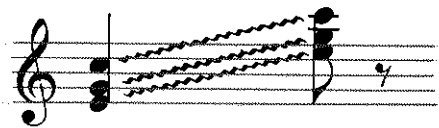
2つ以上の音から2つ以上の音へ手を使わずに弾くグリサンドは下図のように直線で示します。



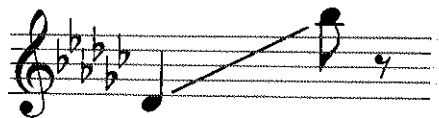
この場合、音は下図のようになります。



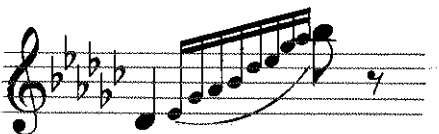
手を使って弾くグリサンドは~~~~で指示します。



黒鍵のみのグリサンドは直線で指示
「注・黒鍵のみ」と書き加えます。



この場合、音は下図のようになります。



以上、上昇のグリサンドを示しましたが下降の場合もまったく同じです。

エレクトーン用語解説

ヘッドホーン・ジャック=ヘッドホーンをさしこむところ。

ウッド=トーンレバーまたはタブレットの1つで、少し倍音を含み、単純であるが明るい感じの音が出る。本来は木管楽器を意味する。

A・G・Oスタンダード=パイプオルガンの演奏台に関する米国での標準規格。A・G・Oとは American Guild of Organist の略称。エレクトーンF-1はこれを採用している。

エクスプレッションペダル=全体の音の強弱を調節する装置で、これを操作することによって音に表情をつけることができる。

エフェクト・タブレット=エレクトーンの音にビブラートやマンドリンなどの効果をつけるタブレットの総称。

エフェクト・レバー=エレクトーンの音にビブラートやマンドリンなどの効果をつけるレバーの総称。

オーボエ=トーンレバーまたはタブレットの1つで、基音より強い倍音を持ち独特な響きのある叙情的な音を出す。

オルゲルブント=保続音ともいう。オルガン曲の作品に見られる作曲上の手法。

オルタネーティングバス=コードシステムで演奏する場合、普通バスは根音だけで弾くが、それを分散和音で弾くこと。(例えばド・ソ・ド・ソ……のように)

音源発振器=エレクトーンの音源となる電気振動をつくる回路。

回転スピーカー=音を分散させ、指向性を変えて立体感を出すために、風車のように回転させるスピーカー。

カウンターメロディ=主旋律に対す対旋律のこと。

開閉回路=鍵盤の操作によってトランジスタやダイオードを働かせて電気振動を通したり遮断したりする回路。

間接開閉方式=直接開閉方式の不快感をなくすために、トランジスタやダイオードを使用して、信号の開閉

をさせる方式。これによりサステインの効果も得られる。

基音=楽音中の最低の周波数成分をいう。楽音は、この基音と、その整数倍の振動数を持つ倍音とで構成されている。

キーボードパーモニー=鍵盤和声のこと。与えられたメロディに、鍵盤上で和声づけをして行くこと。

キャンセルボタン=すべてのタブレットをはずすボタン。ただし個々のプリセットに記憶されている音の組み合わせはキャンセルできない。

クラリネット=トーンレバーまたはタブレットの1つで倍音がうまく配合され丸みのあるさびしい感じの音が出る。表現力が豊かである。

クリック・ストップ=トーンレバーの入り具合の目安となるようにトーンレバーに設けた3つの段階のこと。

グリッサンド=鍵盤上で、ある音から他の音へ指をすべらせ、その間の音を全部発音させる奏法。

クレッシェンド=次第に音を大きくする意味から、パイプオルガン及びエレクトーンF-1では音色、音量が次第に増す効果という。

クレッシェンドペダル=クレッシェンドの効果を得るために足で制御できるようにした装置。

クレッシェンドランプ=クレッシェンドがどんな状態になっているかを示すランプ。

鍵盤間カブラー=スエール鍵盤の音色をグレイト鍵盤で演奏したり、またスエール鍵盤やグレイト鍵盤の音色をそのままペダル鍵盤でできるようにするための装置。

鍵盤内カブラー=同鍵盤内でオクターブ上と下との音を同時に鳴らすことができる装置。

コード=和音のこと。メジャーコード(長三和音)、マイナーコード(短三和音)、セブンスコード(七の和音)ディミニッシュコード(減三または減七の和音)などがある。コードを選んで演奏する。

コードシステム=左手でコードまたはリズムをとり、右手でメロディを演奏する方法。

コード付け= (和音づけ) ある旋律にコードをつけること。

コントラフルート=トーンレバーまたはタブレットの1つでフルートより1オクターブ低く、やわらかい充実したバスフルートの様な音が出る。

サステイン=エレクトーンの音は、普通鍵盤を離すと同時に消えるがこれを減衰させて自然に消えてゆく感じにする効果。

サステナー=サステイン効果を作る装置。

シックスコード=加六の和音(附加六度の和音ともいう)。根音の音名の右に6をつける。Ⅳの三和音の上に根音から数えて六度の音を加えた音。

主発振器=音源の元となる電気振動を作る部分で、一番高いオクターブの音をつくる。

シンキングビブラート=エレクトーンC-2B型にとりつけられているビブラート効果で、ビブラートの速さと、深さを自由に可変できる。

スエール=元来膨張する、増大するという意味があり、パイプオルガンではパイプを箱の中に入れ蓋を開閉する事により、音量を可変した。これは一般に上鍵盤のパイプについて行なったので、その後上鍵盤をスエール鍵盤と言うようになった。

スタッカート=1つの音と次に続く音を続けずに、切り離して演奏すること。

ストリング=トーンレバーまたはタブレットの1つで、高い倍音を豊富に含む複雑で豊かな、弦楽器に似た音が出る。

スピネット型電子オルガン=スピネットとは15世紀末から18世紀末まで使用された小型ハープシコードの一種で、これに似た小型家庭用電子オルガンをいう。

正弦波=波型の最も簡素なもので、波動の各点が同じ単振動をなす時に生じる波をいう。

ゼネラルプリセットピストン=スエール、グレイト、ペダルタブレットを全部記憶する装置のピストン。手でも足でも操作できる。

増幅回路=電気振動のエネルギーをトランジスタや真空管を使って増大する回路。

チェロ=トーンレバーまたはタブレットの1つで、ホルンより倍音が強調された柔かい、チェロに似た音が出る。

直接開閉方式=音源回路からの電気振動を鍵盤の接点によって直接開閉する方式。

2チャンネル方式=スエール鍵盤とグレイト鍵盤の音が、それぞれ別のスピーカーから出る方式、臨場感を与える。

ツービート=バスを1小節の中に2回打つこと。

ディアパーソン=トーンレバーまたはタブレットの1つ。本来、オンの最も基本的な音栓である。倍音が少なく、輝きのある音色で清朗なオルガン特有の感じがする。ドイツ語のプリシパルに同じ。

ディミニッシュコード=減三和音の二と短三度を2つ重ね、即ち第5音と根音が減五度となるものをいう。

ディミニッシュ7th=減七の和音。根音の音名の右にdim 7をつけて表わすこともある。減三和音のさらに短三度上の七音を加えた音で、各音程はみな短三度になっている。

転回=和音の音と音との上下の関係を入れ替えること。

トランジスタ=ゲルマニウムやシリコンの結晶を利用し、真空管と同じような働きをする超小型の子。

トランペット=トーンレバーまたはタブレットの1つで、高い倍音まで豊富に含まれ、華やかで冴えた音が出る。

トレモロ=本来、震音を意味するがエレクトーンの音に一定周期で振動数および音量の変化を加え、滑らかな伸びのある感じを出す効果。

トーンキャビネット=エレクトーンの音を増幅し、迫力ある音を出すスピーカー内蔵のキャビネット。

トーンタブレット=エレクトーンの音色を選ぶスイッチにあたるもの。押すだけのワンタッチで操作できる。

トーンボード=ある曲を弾く場合のレバーの入れ方をあらかじめセットして、これを型板にとってあるもの。初心者で、レバーの操作がうまく行かないときなどこれをはめこんでセットできる。

トーンレバー=エレクトーンの音色をコントロールするレバーで、その音量を連続可変に調節することができる。

ナインコード=属九の和音。根音の右に9をつけてあらわす。V₇の上に根音から数えて9度の音を加えた音。

ナザード=F-1、F-2のタブレットの1つ。本来パイプオルガンの音栓名で記譜よりオクターブと完全上上の音が出る。フルート系の優美で輝かしい音色。

ナチュラルサウンド・スピーカー=ヤマハが開発した平板の多次元共鳴スクリーンで、楽器用スピーカー。
パイロットランプ=電源が入ったしるしにつくランプ。

パーカッション・ボタン=打楽器効果を出すために使用するボタン。
パッセージ=経過句ともいう。あるまとまった旋律から次の旋律へのかけ橋の部分。

倍音=楽音において基音の整数倍の振動数をもつ音。

バス=トーンレバーまたはタブレットの1つで、オルガン的な澄んだ音色を、れいろうな感じがする。

レバー=上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスを調節するためのレバー。
パワー・スイッチ=エレクトーンを働かせるための電源を開閉するスイッチ。

ビオラ=パイプオルガンでは開管であるが、ビオラに似たやわらかい音が出る。

ビオラ・ダ・ガンバ=F-1のトーンタブレットの1つで、17・8世紀に使われた楽器ビオラ・ダ・ガンバにた開管系の音が出る。

ピッコロ=F-1、F-2のタブレットの1つで記譜より2オクターブ高い音を出す。フルート系のかん高い音色である。

ビブラート効果=音源周波数を一定の周期で上下させ、うるおいのある音を得る効果。

ファイフェ=F-1、F-2のタブレットの1つで記譜より3オクターブ上の音を出す。フルート系の優美で輝かしい音色。

フォービート=バスを1小節の中で4回打つこと。

プラス=トーンレバーまたはタブレットの1つで、張りのある明るい感じで金管楽器の響きがする。

ブリリアンス=音色を、まるみを帯びた暗い感じにしたり、明るい感じにしたりする効果。

プリンシパル=ディアパーソンに同じ。ドイツ語。

ブルドン=F-1、F-2のタブレットの1つで、最低音を受けもつ音色。深みのある落ち着いた感じがする。

フリーコンビネーション方式=音色、カプラー効果に関するタブレットの組合わせを演奏者が自由に選んで、それを内蔵している記憶装置にセットさせ、演奏の際、口棒につけているボタンを押すことにより記憶させた音色(組合わせ)を自由にリセットできるプリセットの方式。

プリセットボタン=タブレットの組合わせをあらかじめセット、また使用時にプリセットさせる口棒に付いているボタン。

フルオルガン=本来、強い音響効果を得るために、数個の音栓を同時に開くことまたはその状態に示すオルガン用語。エレクトーンF-1にはフルオルガンボタンがついており、音色、カプラーに関するタブレットが全部入った状態になるよう、本体内部で作動する。

フルスケール=本来は本格的という意味。上下の鍵盤が61鍵ずつで、ペダルが32鍵のオルガンをいう。エレクトーンでは、F-1がこれにあたる。

フルート=トーンレバーまたはタブレットの名称の1つで、倍音が最も少なく、楽器のフルートより少し暗い音が出る。

フレーズ=旋律や主題の基礎をつく

る構造で、4個の強拍よりなる。

また旋律や経過句の1区切りをいう。
分周器=音源をつくる部分で、主発振器の発振周波数を次々に半分に下げる働きによって、一番低い音域までの音をつくる。

分周方式=12音を発振させ、それぞれオクターブずつ下の音程に落としていって、すべての音源を作り出す方式。

ペダル鍵盤=足で操作する鍵盤。一名足鍵盤。

ペダル・アタック=C-2B型についている効果でベース音にアクセントをつけるので弦バスのピチカート奏法の効果が得られる。

ベースボックス=ペダル鍵盤を取外しができるよう単一化したものである。

ホルン=トーンレバーまたはタブレットの1つで、特に強調された倍音はないが、一定の比例で弱まりながら、高い倍音まで含み、ホルンに似てこもったなめらかな音が出る。

マニュアルキーボード=手で操作する鍵盤。すなわち上鍵盤と下鍵盤のこと。一名、手鍵盤。

マンドリン効果=一定の周期で音量を変化させ、マンドリンに似た音を得る効果。

メモリー・ボタン=音色を記憶するとき使用するボタン。メモリー・ボタンを押しておいて、タブレットを組み合わせて、プリセット・ボタンを押すと音色が記憶される。

指替え=同一鍵盤上で、音を出したまま指を交替させる演奏法。

指ぐり=押鍵盤中のある指の下を、他の指がぐぐって、次の音を出す演奏法。

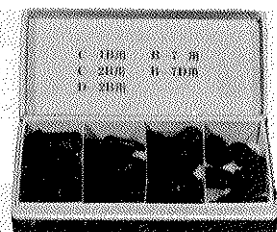
ラリゴ=F-1、F-2のタブレットの1つで、記譜より2オクターブと5度高い音が出る。フルート系の輝かしい音色で、他の音と併用して、派手な効果を出す。

リバーブ=広い部屋で聞いているような残響のつく効果。

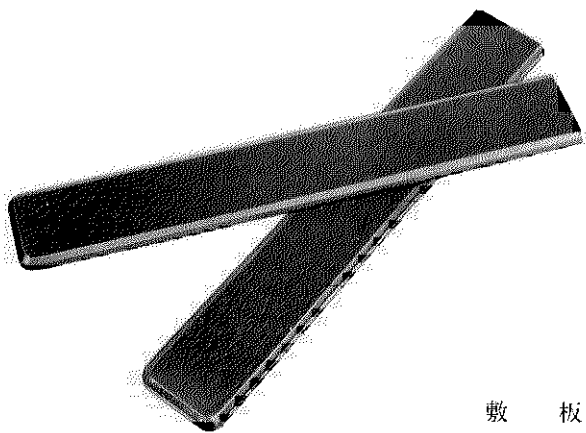
レガート=音と音とを切らずなめらかに演奏すること。

附属品のご案内

下記の附属品はエレクトーン附属品として楽器店にて販売致しております。エレクトーン各機種に共通でご利用いただけますのでご利用下さい。



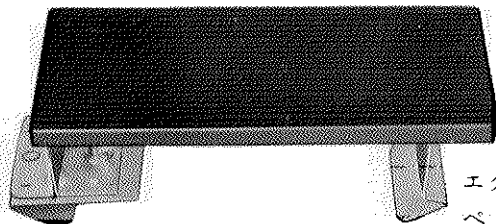
レバーストッパー 200円



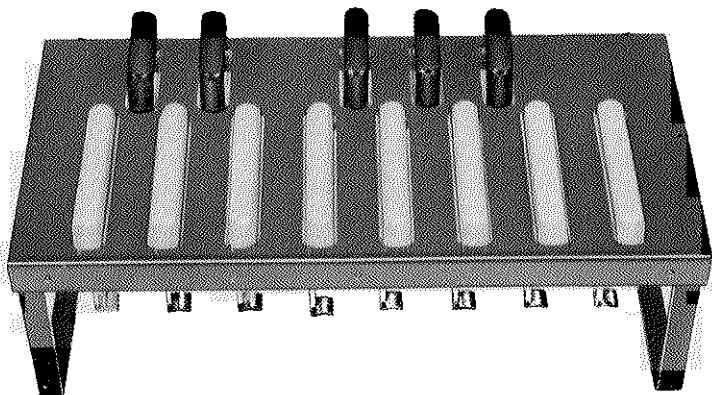
敷板 150円



ヘッドホン 3,300円



エクспレッション補助
ペダル 750円



ペダル鍵盤補助ペダル 7,000円

ヤマハエレクトーン教室のご案内

ヤマハエレクトーン教室は、音楽を愛好する皆様に、大人の方も子供さんも、音楽的知識のある人にも楽譜のよめない人にも、エレクトーンを使って音楽の楽しさを味わっていただくという配慮から、一貫された指導法によってつらぬかれております。

鍵盤経験のあさい、6才から12才くらいの小学生の皆様には**エレクトーンスクール**と、大人でも子供さんでも、音楽経験のゆたかな人から全くない人までを対象にした**エレクトーンメイトコース**が用意されています。

エレクトーンスクール

エレクトーンスクールは、音楽についてはまだうぼみ、云いかえすと無限の可能性を秘めた6才～12才くらいの小学生児童のためのたのしいエレクトーン教室です。エレクトーンをとおして、たのしく、その音楽の芽を育ててまいります。

- 期 間 1年間、46回レッスン（週1回、月4回）
- テキスト 前期（6ヶ月）、後期（6ヶ月）各1冊
- 講 師 指導は特別の研修を受けたエレクトーンスクール講師が担当します
- 開 講 エレクトーンスクールは毎月開講いたしております。

★1年間で音楽の基礎が身につきます！

1年の間に楽譜が読め、コード(和音)をおぼえ、鍵盤の位置をおぼえ、エレクトーンが楽しく弾けるようになります。修了後は**エレクトーンメイトコース**ステップ3に入れます。

エレクトーンメイトコース

“エレクトーンメイトコースは8つのステップを登ります。”

エレクトーンメイトコースは進度に応じた8つのステップからなり、それぞれのステップで充分エレクトーン演奏を楽しみながら自由に弾きこなせるまで確実におぼえられるシステムです。

〔エレクトーンメイトコース〕



鍵盤未経験の方はステップ1より、ヤマハ音楽教室幼児科卒業生はステップ3より、鍵盤経験のある方はステップ3～5から入会できる内容になっています。その他専門的なテクニックを習得するための教室、短い期間の教室など各種の教室があります。

※エレクトーン教室のお問い合わせ、お申し込みは、全国のヤマハ特約店、エレクトーンスクール、ヤマハ音楽教室センター及び日本楽器販売店にお問い合わせ致します。



日本楽器製造株式会社

- 本社・工場＝浜松市中沢町10番1号 / TEL. (61) 1111
- 東京支店＝東京都中央区銀座7-9-18ハールビル内 / TEL. (572) 3111
- 銀座店＝東京都中央区銀座7-9-14 / TEL. (572) 3111
- 渋谷店＝東京都渋谷区大和田町52新大宗ビル / TEL. (463) 4221
- 池袋店＝東京都豊島区南池袋1丁目24-2 / TEL. (981) 5271-5
- 横浜店＝横浜市西区南幸町2-15-13 / TEL. (311) 1201
- 千葉店＝千葉市吾妻町2-10松田屋ビル内 / TEL. (22) 7713-4
- 大阪支店＝吹田市大字山田下2864 / TEL. (878) 5151
- 心斎橋店＝大阪市南区心斎橋筋2-39 / TEL. (211) 8331
- 梅田店＝大阪市北区梅田町1阪神百貨店5階 / TEL. (312) 4731-3
- 神戸店＝神戸市生田区元町通2丁目188 / TEL. (39) 3151
- 四国店＝香川県高松市丸亀町8-7 / TEL. (51) 7777
- 名古屋支店＝名古屋市中区錦1丁目18-28号 / TEL. (201) 5141-5
- 九州支店＝福岡市博多駅前2丁目11-4 / TEL. (43) 2151
- 福岡店＝福岡市天神町1-11-17福岡ビル内 / TEL. (76) 1061
- 小倉店＝北九州市小倉区大坂町20番地 / TEL. (53) 4331-5
- 北海道支店＝札幌市南四条東5丁目-12豊ビル内 / TEL. (24) 9221-4
- 札幌店＝札幌市南三条西4-12狸小路角 / TEL. (24) 9221-4
- 仙台支店＝仙台市1番町2丁目6番5号 / TEL. (27) 8511
- 広島支店＝広島市紙屋町1丁目2番 / TEL. (43) 4511
- 浜松支店＝浜松市鍛冶町122 / TEL. (54) 4111
- 海外支店＝ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・シンガポール・フィリピン

●上記の本社・支店のほかに、全国1400の特約楽器店によるサービス・ネットワークがございます。お気軽にご利用ください。

日本音楽著作権協会出認第432409号承認済